

令和2年度事業報告書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	9
3. 人材育成事業	1 3
4. 啓発普及事業	2 5
5. 収益事業	3 6
6. 組織の運営	3 7

はじめに

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスは多くの感染者と犠牲者を出しながら、いまだ終息に至らず、一年以上にわたって人々の生活を脅かしています。日本国内では現在、東京をはじめとした都市圏を中心に3度目の緊急事態宣言が発出中であり、国民一人ひとりの感染予防策の徹底やワクチン接種の広がりにより、一日も早い収束を願わずにはられません。

この一年間、コロナ禍にあって、国内外でのオイスカ活動、特に人材育成関連での研修生・技能実習生の出入国制限、啓発普及関連の諸行事・イベント等の中止や延期が相次ぎ、かつて経験したことのない状況のなか、各分野で大きな支障をきたしました。

とはいえ、国内外の研修センターでは農業を主体に本来の研修業務を可能な限り実施、他のプロジェクトでも行動制限下のなか、本来の活動ができない分はマスク製作や農産物や種子の配賦等を通じた指導など、可能な限りのコロナ関連対応にも取り組みました。

さて、こうしたコロナ禍の影響をもろに受けて、令和2年度は財政面でも厳しい結果となりました。収益・費用ともに前年度比減となりましたが、可能な範囲での取り組みの結果、賛助会員をはじめ支援者各位のご尽力を得て、①海外開発協力事業、②「子供の森」計画事業、③人材育成事業、④啓発普及事業の公益4事業を実施することができました。それぞれ事業の縮小はありましたが、一方、外務省 NGO 連携無償の支援を受けタイでの新規プロジェクトがスタート、また新たにアフガニスタンで「子供の森」計画が始まるなど、一部事業拡大の道筋ができた案件も形成することができました。

このようにコロナ禍の厳しい状況下ではありましたが、令和2年度も賛助会員の皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様のご支援を得て、諸々の事業を実施することが出来ました。ここに厚く御礼申し上げます。

オイスカは本年10月、創立60周年を迎えます。今しばらく厳しい環境下での活動が予想されますが、次の10年に向けてさまざまな見直しを進めながら着実な運営に努め、皆さまと共に国際社会に貢献してまいりたい所存であります。

引き続きオイスカ活動へのさらなるご支援とご参加、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年6月

公益財団法人オイスカ
理事長 中野 悦子

1. 海外開発協力事業

総括

創立 60 周年を目前に控えた 1 年がコロナ禍により活動の推進が極めて困難になることが見込まれたが、駐在員や現地スタッフを中心とした不断の努力により、ある程度の影響は受けつつも、自然再生・保全活動、海外人材育成、持続可能な産業の開発・促進を中心とした事業を推進できた。

自然再生・保全活動では後述する今後 10 か年を視野に入れた事業モデルを策定し、気候変動や環境破壊のリスクにも対応できるような陸と沿岸の環境保全活動を継続した。

海外人材育成では、集合寄宿型研修という当法人特有の密を避けることが難しい形態でありながら、感染対策に十分配慮して、アジア太平洋地域を中心とした各国の研修センターにおいてリーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めるとともに、物資調達が厳しい状況となった地域への産物供給や衛生指導などによる貢献を果たしている。

持続可能な産業の開発・促進では、フィリピンでの養蚕普及事業、インドネシアでの伝統文化を守った形での開発事業を外務省の日本 NGO 無償資金協力を活用して地域の指導層や農民と実施し、オンライン研修やインフラ整備などで技術向上などの意識を高め、事業地の発展に寄与するよう事業を実施した。「ふるさとづくり」をコロナ禍においても着実に展開しつつある。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

1. プロジェクトの実施成果

<自然再生・保全活動>

オイスカは Ecosystem based Solution (EBS) ≡ 自然の力で社会課題を解決すべく、世界各地でマングローブ植林や水源涵養林での生態系の回復支援など自然再生・保全活動を実施してきた。令和 2 年度もこのコンセプトのもと、フィジー、インドネシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ、中国そしてウズベキスタン等の各国で活動を実施し、約 266 ヘクタール、70 万本の植林を実施した。

ところで、ハーバード大学(注 1 : Harvard University's Center of Climate, Health and the Global Environment)によれば、森林破壊、森林破壊による野生動物のハビタットロス、人間と野生動物そして野生動物同士の接近、そして大気汚染などが、新型コロナ、エボラ出血熱などの新たな伝染病勃発・拡大に貢献していると説いている。こうした環境破壊が続くならば、更なる伝染病の発生リスクが高まるということだ。したがって私たちの森林再生及び保全活動も、直接的ではないかもしれないが、第 2 第 3 の新型コロナの発生を防ぐ意味で重要な役割を担っていると見えよう。

注 1 : "Coronavirus, climate change, and the environment" March 20, 2020
Harvard University's Center of Climate, Health and the Global Environment
<https://www.ehn.org/coronavirus-environment-2645553060.html>

1. モンゴル国ブルガン県における森林再生並びに環境教育事業

モンゴル国ブルガン県では、前年度まで他の助成団体などの支援を受け実施していた活動に続き、2020 年度は緑の募金事業の助成を受け活動を実施した。今回の事業では、モンゴル北部のブルガン県セレンゲ区内に於いて、研修生 OB が中心となり、対象地域周辺の住民約 1000 人と共に主に 2 つの活動を行った。一つは森林火災や違法伐採

により減少した森林を再生し健全な森林の機能回復を目指して、住民参加による 2500 本の植林活動を実施した。今年度はモンゴルでもコロナ禍で厳しい制限が続いた状況から、当初の植林時期をずらし、地元行政からの許可を得て活動を行った。植林活動はコロナ禍で制限されていた住民一同での作業でもあり、参加した研修生 OB や住民にとっても、改めて森林再生の意義を確認しながら満足いく活動が出来たとの声が聞かれた。

2 つ目は森林の再生を持続的な取り組みとするための環境教育を実施した。植林活動同様、コロナ禍の制限に配慮しながら対象の学校並びに植林活動時などに住民向けの環境セミナーを実施し、植林活動を通じた森林の維持・管理の重要性並びに関連作業について理解を深めてもらう良い機会となった。

今後も、住民主体の森づくりについて現地関連団体であるオイスカモンゴルからも適宜フォローを続けていく。

2. マングローブ植林プロジェクト（インドネシア、バングラデシュ等、5 カ国）

気候変動に起因する異常気象が頻発し、巨大台風、巨大サイクロンが各地で発生し、被害が続出したが、これまでマングローブ植林を行ってきた地域ではマングローブの森のおかげで、大きな被害は免れている。気候変動による災害を自然の力をもって軽減していこうとする考え方、Eco-DRR（Ecosystem based Disaster Risk Reduction）の一例でもある。オイスカは、令和 2 年度も企業・労働組合等の支援を得て、インドネシア、タイ、フィリピン、バングラデシュ、そしてフィジーの 5 カ国において、合計で 164 ヘクタール約 57 万本に及ぶマングローブ植林活動を行った。1990 年から各国において進めてきたマングローブ植林活動は、累計では 8,376 ヘクタールとなった。

実施国すべてでコロナ禍に見舞われたが、住民にとってマングローブ植林プロジェクトの意義を再認識する年ともなった。多くの国で、ロックダウンや移動制限が敷かれ、村の外にも出られない地域もあった。近隣の町へ働きに行けず仕事を失う住民も多く出た。そんな中、金額は大きくはないものの村の中で行われる植林活動は移動制限にとらわれることがなく、確実な収入につながった。インドネシアでは、職を失った沿岸住民に政府がマングローブ植林を実施し賃金を支払うプログラムを作るなど、活動への理解と感謝が増した感もある。マングローブがあることで、プロジェクトの作業収入そして、魚介類の収穫も可能であり非常時のサバイバルに不可欠な自然の財産であることが再評価された格好になった。

3. タイ北部環境保全プロジェクト

タイ北部における森林伐採とそれによってもたらされる水害、焼き畑による煙害、化学肥料の使用過多による環境汚染など、様々な問題をもたらしてきた当地の環境破壊を止めるべく、オイスカではこれまで多くの企業・団体からの支援のもと植林を中心とした環境保全活動を実施、また 2016 年 6 月からの 3 年間は外務省日本 NGO 連携無償資金協力の支援を受けて大規模な森林保全・再生並びに生計向上プロジェクトを実施し、環境を守りながら現地住民の生活を向上させる仕組みづくりに取り組んできた。その結果、特に現地住民の環境に対する意識が非常に高まり、自分たちの手でこの自然を守っていくという意識が広く浸透してきている。

これらの取り組みを継続しさらに発展するべく、今年度も植林や森林整備活動などを実施。新型コロナウイルスの影響によって様々な制限を余儀なくされたが、現地住民の積極的な姿勢もあって活動はほぼ予定通り実施することができた。今後も引き続き現場と協力しながら活動を進めていく。

<海外人材育成>

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。政府との良好な信頼関係から長期にわたり活動を続けているマレーシア・サバ州と、日本への人材送り出し機関としても機能し始めているインドネシア・ジャワ島での活動についてここでは紹介する。

(マレーシア)

オイスカは1977年からマレーシア政府農業食品産業省（以下、MAFI）と協約を締結して活動しており、サバ州の地域開発、起業家育成に貢献してきた。MAFI傘下のKPDオイスカ青年研修センター（以下、センター）では、17歳から25歳までのサバ州の青年に16か月と8か月の二つの期間で農業一般、食品加工、稲作、キノコ栽培、家畜飼育などの研修を実施し、リーダーシップと技術の育成に努めてきた。

今年は72名の青年へ研修を行い、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、二つのコースそれぞれの研修期間を延長したが、卒業試験を行う試験官が、移動制限により首都のクアラルンプールから出張できなくなり、残念ながら再度卒業が延期されることになった。

センター内においても男女の食事時間をずらしたり不要不急のセンター外への移動を控えるなど感染防止策を徹底し、幸い感染者を出すことなく研修を続けることができた。

そのような中でも農業生産はしっかりと質量とも確保しながら研修が行われ、月間では1,000羽の高品質の鶏を出荷するなどそのレベルを落とすことなく市場でも高い評価を得て活動が続けられていることは特筆すべき点である。

(インドネシア)

インドネシアに所在する2つの研修センターでは、新型コロナウイルス感染防止の観点から本年度の正規研修生の受け入れを見送らざるを得なかった。

そんな中、スカブミ研修センターでは、事前にPCR検査を受けてもらい、少人数で外部からの委託研修の受け入れ、また日本へ派遣予定の技能実習候補生16名への派遣前研修を、感染対策を講じながら実施した。しかし、技能実習生の配属予定先での受け入れも、コロナ禍で日本での企業側にも影響が及んでおり、派遣中止が決定した。一方、そういった状況下でも派遣前研修プログラムは最後まで続け、今後日本での新規求人があった場合、彼らを優先的に候補者として派遣できるよう、センターとしては候補者のモチベーションの維持に努めながらフォローを行っている。

本年度のインドネシアでの活動で最も大きな影響を受けたオイスカの根幹である人材育成。一日も早く、以前のように国内各地から研修生を受け入れ、活気あるセンターに戻ることが望まれる。

<持続可能な産業の開発／促進活動>

農村地域の開発、環境保全事業の成功には、そうした活動がいかにその後の生計向上につながるかがポイントとなる。そのため「ふるさとづくり」における持続可能な産業の育成は環境保全や開発と表裏一体のものである。いかに生活環境の改善が図られようとも食の供給を基礎とする生計維持の機能が途絶えては、社会インフラとしての環境改善の持続性は見込めない。多様化する現代においてはニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのようなNGOの存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を生み出していくような動きが望まれている。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

1. ネグロスシルク事業を基盤とする養蚕普及全国展開支援事業（フィリピン）

2年次を迎えた今年度は、前年度の成果を受けて更なる進展を目指す予定だったが、予期しなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国規模で展開する当該事業としては、活動の大半を自粛することとなった。

そうした状況下でも新しく始めた養蚕農家への巡回指導は可能な限り実施すべきとのことから感染状況が落ち着いた時を見計らってパナイ島のアクラン州、アンティケ州、イロイロ州の農家を中心に現地スタッフが訪問し、壮蚕飼育の技術指導や桑園管理についてのアドバイス等を行なった。

また、当事業の活動において国内各州の養蚕を目指す地域のリーダーや農家によるバゴ研修センターでの実地体験を通じた養蚕セミナーに最も力を入れており、今年度も同センターでのセミナーに期待が寄せられていたが、コロナ禍により州を跨いでの移動が厳しく制限されたために残念ながら一度の実施も叶わなかった。そこで、代替案としてバゴ研修センターと各州間によるオンライン・セミナーを開催したところ、現地スタッフによる桑木を用いての分かり易い解説などが好評を得、各州の担当者からは再度の開催を要請してくるほどであった。今後、代替案として活用できることが確認できたことは大きい。

本事業では専門家派遣による指導も計画されていたが、コロナ禍により一度も実施出来ずに終わった。また、各州から選抜された代表者による訪日研修も計画されていたが、こちらも同様に実施出来なかった。昨年度実施した訪日研修が予想以上に実り多いものであったことから、新たに加わったヌエバビスカヤ州やアンティケ州の担当者からは次年度での実施には大きな期待が寄せられている。

一方、ベンゲット州や東ミサミス州で計画されていた壮蚕所建設は予定通り行われ、ほぼ計画どおり終えることが出来た。

今年度はコロナ禍により当初の目標からは大幅な遅れとなった。一日も早いコロナ感染症の収束を願い、最終年度となる次年度は、これまでの遅れを取り戻す勢いで農家増数や繭増産に向けて取り組んでいく予定である。

2. 伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業（インドネシア）

日本 NGO 連携無償資金協力により、新たに開始した「伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業」の1年次が開始となった。本事業は、西ジャワ州スカブミ県の山岳部に居住する、スンダ族の伝統的な生活様式を守って生活する共同体を対象に、住民の生活環境の改善と生計向上を目指すもので、その住民2,300名が事業の対象となっている。

1年目となる本年度は、当初の事業計画が新型コロナウイルスによる影響により、外務省からの指導のもと、前半の3か月間の活動休止を余儀なくされた。7月より活動が再開し、本年度のなかでも特に規模の大きな事業として、用水路補修工事、及び農場資材製造所の建設がその後数か月かけて計画通り行われた。結果として、用水路の補修により事業地への水の供給が劇的に改善され、これまで水不足で作付けできなかった休耕田で稲作が再開され、さらに新たな水田の開拓・造成といった動きが確認されている。

また、住民に対する生計向上の一環としてアグロフォレストリー及び野菜栽培に関する研修を開催し、前者では土地の保全や果樹などの多年生換金作物について、後者では、農業一般の基礎などについて事業地で組織化した農民グループからの代表がそれぞれの研修に参加し、今後の活動に向け学びを深めた。なお、今期建設された農業資材製造所では、この時に学んだ有機液体肥料や自然農薬の製造が行われ、作物の栽培においては、指導員による巡回指導が2年次も継続して行われることが予定されており、住民が学びの期間を経て、生計向上に向けて主体的に活動が行われていくことが期待される。

<緊急・復興支援>

・新型コロナウイルス感染症対策緊急支援

2019年度に確認された新型コロナウイルスは、2020年度、オイスカが活動を展開しているアジア、大洋州、中南米の国々へも急速に感染が拡大し、それぞれの活動国でも厳しい対策を迫られることとなった。

オイスカでは、各国の新型コロナウイルスに対する様々な活動を支援する目的で、2020年5月末から8月末まで緊急支援募金を日本全国に呼びかけ、全国のオイスカ会員の方々を始めとする90名の方々からご支援いただき、それらを元に各国で様々な支援活動を実施した。

まず初動としては、各国のOB研修生を中心に研修センターで収穫した農産物を地域住民に配布するなどの自主的な取り組みが各国で行われた。それを契機に、募金を元にした緊急的な支援活動として、水や食料品、マスクなどを困窮者並びに医療関係者や警察官など感染症と最前線で戦う人々などへも配布した。その後、“コロナと共に生きる時代”に即した取り組みとして、各国の地域のニーズに応じて、例えばフィリピンでの「子供の森」計画参加校での環境保全と感染症対策セミナーの開催、モンゴルでの食料の安定的な確保を目的とした家庭菜園支援、ミャンマーでの感染症対策としての水洗い場の設置、などの種々の活動を実施し、現地の住民達の支援に役立つ活動と評価を受ける活動を実施できた。新型コロナウイルスとの戦いは引き続き各国で継続している。今回の緊急支援後も、WITH コロナにおける課題に対応した取り組みをオイスカは各国で継続していく。

<調査研究・専門家・指導員派遣>

・フィリピンレイテ島におけるヤシ殻等を用いた砂浜海岸林造成技術開発

期間：令和2年6月23日～令和3年3月22日

派遣国：フィリピンレイテ島

実施者：長宏行・清藤城宏

内容：

砂浜海岸の土壌は、砂質で乾燥高温、加えて風害、塩害、飛砂害が伴うため、一般に、植栽しても活着率が極めて低い。関連して、熱帯域に属するフィリピンでは、近年巨大台風が頻発し、津波被害が起きるようになってきた。こうした背景・必要性から、熱帯域の砂浜海岸における普及が比較的容易で尚且つ確実な育苗・造林が可能な方法の開発が望まれるようになってきたため、今回の実証実験実施に至った。なお、本調査は林野庁補助事業である途上国森林再生技術普及事業 森林再生技術開発に係る調査業務の中の一つであり、(公財)国際緑化推進センターからの受託を得て実施した3年目(最終年)の調査。

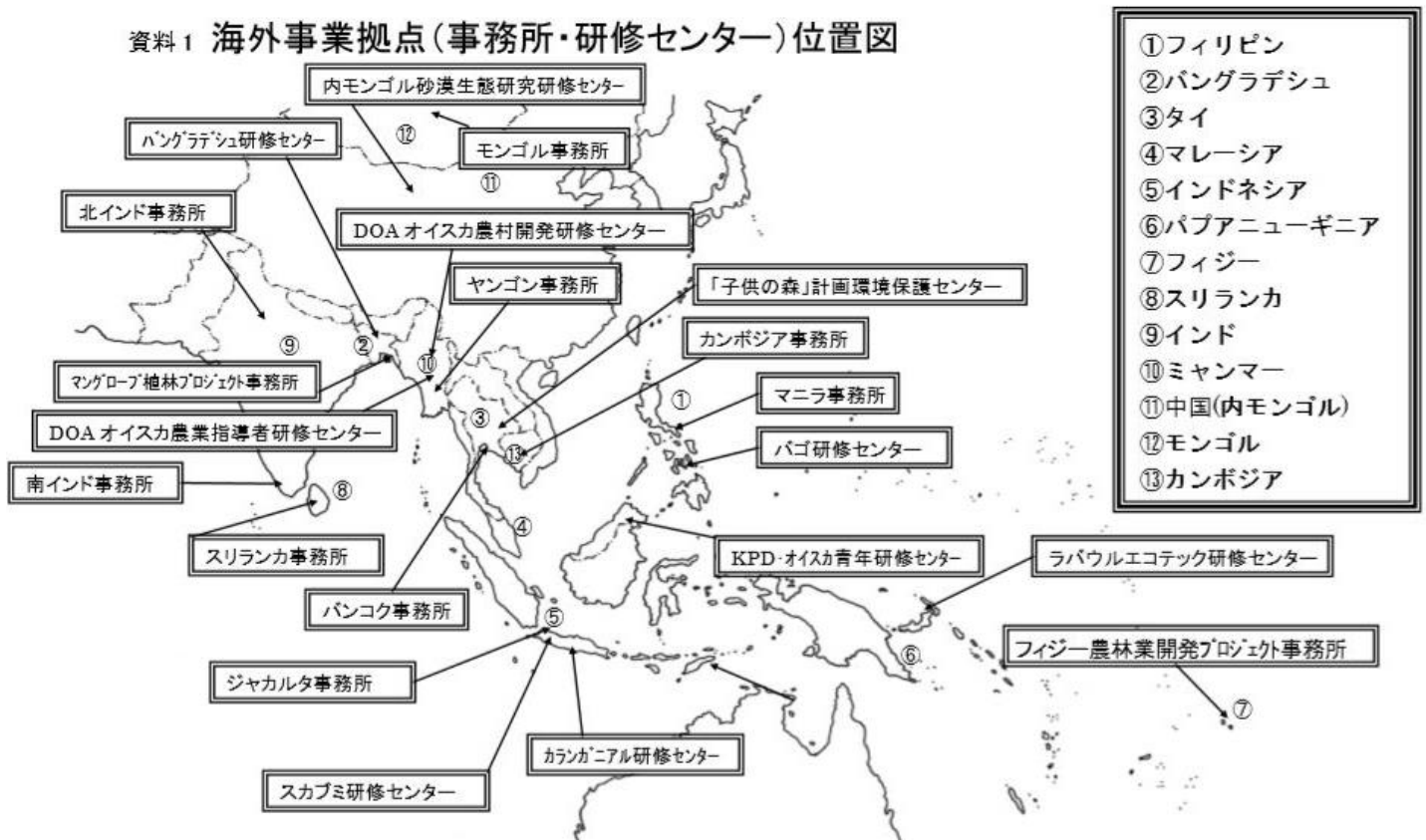
令和2年度の調査は、①過去2年間の植栽試験のモニタリング(竹の防風フェンスの区画を設けて防風効果についても調査)、②既存植林地の林分構成調査、③竹を用いたコンテナ育苗容器の開発(Mスターコンテナの代替容器)、④マニュアルの改訂等を行った。樹種は、モモタマ(*Terminalia cattapa*)、クロヨナ(*Millettia pinnata*)そして、オオハマボウ(*Hibiscus tiliaceus*)を用いた。

調査の結果、以下のような成果を得た。

- モモタマとクロヨナの植栽処理において、ココピート土壌混入とヤシ殻マルチを組み合わせることで、Mスターコンテナ苗・ポット苗ともに生存率が大きく向上した。
- 竹フェンスには生存率を高める効果は認められないが、伸長量はフェンスの有無で明らかな差があり、伸長成長の阻害を軽減する効果が示唆された。

- 竹コンテナ苗は根が垂直方向に発達するコンテナ苗の特徴を有し、Mスターコンテナ苗よりも細根量が多いなど、Mスターコンテナの代わりとして使えることが確認できた。また、マニュアル（和・英）も作成した。今後フィリピンはもちろんのこと他の熱帯諸国への、この技術の普及が期待される。

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
インドネシア		
1	中垣 豊	農業技術指導・運営管理
2	中垣 アダ	調整・渉外
ミャンマー		
3	小杉 辰雄	農業技術指導・運営管理
フィリピン		
4	渡辺 重美	運営管理
5	石橋 幸裕	運営管理
6	中川 春希	調整・渉外
タイ		
7	春日 智実	運営管理
パプアニューギニア		
8	荏原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
9	ジョセリン マツンハイ	調整・渉外
10	清水 和雄	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	16	3
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	9	-
1	インド	南インド事務所	14	1
2		北インド事務所	3	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	58	54
2		カラングニアル研修センター	10	15
3		ジャカルタ事務所	1	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	22	72
1	モンゴル	オイスカモンゴル事務所	2	0
1	ミャンマー	ミャンマー農村開発研修センター	24	0
2		ミャンマー農業指導者研修センター	14	0
1	フィリピン	マニラ事務所	3	-
2		バゴ研修センター	22	6
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		バラワン研修センター	3	0
5		ダバオ研修センター	6	0
6		アブラ農林業研修センター	5	20
7		ヌエバエシハ研修センター	2	0
1	スリランカ	スリランカ事務所	6	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト (チェンライ)	3	-
2		マングローブ・プロジェクト (ラノー)	6	-
3		「子供の森」計画環境保護センター (スリン)	1	-
4		「子供の森」計画 (コンケン)	1	-
5		バンコク事務所	5	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	-
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	6	18
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	15	0
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	4	0
合計			266	189

*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中が未曾有の事態に直面し、「子供の森」計画（以下、CFP）の活動や運営もさまざまな影響を受けることとなった。主な活動地であるアジア・太平洋地域では、国内における感染者が報告され始めた20年3月頃からは、出入国が制限されるようになったほか、ロックダウンなど感染拡大を防ぐための移動や活動の厳しい制限措置が取られるようになった。さまざまな制限によって、社会が混乱する中で、生活が困窮する人々が急増。さらに教育面においては、各国で全国的な休校措置や対面授業の停止・縮小が長期化しており、子どもたちの学びや心身の成長にも悪影響を及ぼしている。

こうしたさまざまな制限の中で、CFP事業では、例年のような活動の実施が難しくなっただけでなく、活動地の子どもたちやその家族、コミュニティの人々も困窮し、大きな影響を受けた。これまで一緒に歩みを進めてきた子どもたちや地域を支えるために何ができるのか、今オイスカに何が求められているのか、そしてコロナ禍でも、どのような形であれば環境保全や環境教育を継続できるのか、それぞれの現場と話し合いを重ね、予定していた活動を、各地の状況やニーズに即した内容に一部変更して事業を展開。感染対策を講じた上での植林活動のほか、家庭における環境学習を促進する冊子の作成やオンラインを活用したセミナーを各地で導入するなど、環境保全の意識づけを止めないよう、新たな取り組みも開始。また手洗い場の設置や衛生用品の配布など、感染予防のための支援や啓発を行いつつ、フィリピンやスリランカなどでは、学習教材づくりを支援するなど、自宅学習が続く子どもたちの教育を支える取り組みも実施した。各現場から寄せられたさまざまなアイデアや、実際に行動を起こしてくれるスタッフ一人一人の努力によって、事業を続けることができ、またオンラインツールなどを通じて今まで以上に各現場とのコミュニケーションを重ねることで、一丸となって事業を進めることができた。なお対象地については、現地のニーズや実行体制に基づき、引き続き、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国において、重点的に事業を支援・展開した。また20年には、企業支援によって新たにアフガニスタンでの活動も開始し、累計参加国・地域は、37の国と地域に広がった。

海外との行き来が困難になり、子ども親善大使事業や海外ボランティアツアーなどの交流事業も中止を余儀なくされた。日本国内においても、対面式のイベントや報告会の開催が難しくなったものの、海外の取り組みを支えるべく、オンラインなどを活用した新しい形でのコミュニケーションを取り入れて、情報発信や広報活動を継続。ニュースレターなどの広報物や、ホームページ・SNSでの発信のほか、活動地の状況や、事業内容の一部変更にかかる理解を得るため、オンライン報告会の開催や動画での発信にも取り組んだ。また外出を伴うボランティア活動も自粛されるなか、ベルマークの収集や古本寄付など自宅でも参加できる支援プログラムの呼びかけについても、改めて周知に努めた。こうした広報活動の結果、2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日）の「子供の森」計画支援口数による支援（5,996口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金やベルマークなど合わせた寄附金総額は42,770,651円となった。

2. 各プロジェクト実施成果

① 新型コロナウイルス対策支援

感染拡大を防ぐための厳しい移動や活動の制限によって、活動地においても、社会が混乱し、生活が困窮する人々が急増した。CFPでは、制限によって孤立してしまった地域に希望と支援を届けられるよう、緊急支援として食糧や、感染対策に向けた消毒液や石鹸など衛生用品の配布を実施。特にミャンマーでは、厳しい規制と、一年で一番暑く慢性的な水

不足が発生する乾期が重なったことで、地域住民の生活にも深刻な影響が出ていたため、同国内2か所の研修センターを拠点として、センター周辺の村、1,075の世帯を対象に、米や野菜、卵などの食糧セットのほか、飲み水や現地スタッフが手づくりしたマスクの配布を行った。また、ミャンマーに加え、バングラデシュやインドネシア、フィリピンでは、企業支援や助成金によって、手洗い場の設置も支援しながら、啓発資料などを作成・配布するなど、感染予防についての啓発活動も行った。

なおこうした感染対策に加え、フィリピンやスリランカでは、学校の休校によって学びの機会が失われている子どもたちに対し、教育活動の維持に向けた支援も実施。1年以上にわたり対面授業が停止されているフィリピンでは、CFP参加校の多くが農村部にあり、多くの子どもたちはオンライン授業を受ける環境が無く、学校から出された課題プリントを使って在宅学習をしている。学校からの要請を受け、CFP参加校のうち、資金的に教材づくりが厳しい132校に対し、コピー用紙やインクなど教材作成の支援も行った。

② 多様な場における環境保全活動を促進

主な活動拠点である学校が閉鎖、あるいは対面授業が縮小されたことによって、従来の学校をあげた植林活動が困難になった国・地域も多く、状況に合わせた対応が必要とされた。各国において最も移動制限が厳しかった時期には、現地スタッフが安全に配慮しながら、植林地の管理を継続。移動規制が一部緩和された時期より、学校や地域において、植林活動を徐々に再開するとともに、集会型の植林のみにこだわらず、家で過ごす時間が増えた子どもたちやその家族への働きかけとして、インド、インドネシア、フィリピンなどにおいては苗木を配布し、家庭での植樹も推進した。植林実績こそ前年度と比較すると半数程度に落ち込んでしまったものの、コロナ禍に対応し、対象を多様化しながら事業を展開し、環境保全活動を継続できたことは一定の評価ができると思う。

③ 「国連生物多様性の10年」最終年に関連した取り組み

2020年は、国連生物多様性の10年の最終年ということで、CFPでも精力的に参画してきたグリーンウェイブ（5月22日の国際生物多様性の日を記念した環境保全活動）にも、これまで以上の盛り上がりが見込まれていた。しかし、4～6月のグリーンウェイブ期間にはほぼすべての活動国で学校が閉鎖されたほか、行動制限も厳しく、学校単位の活動は困難となった。不安や緊張感を増幅させるニュースが続く中、少しでも前向きな気持ちを広げたいという想いで、実施可能な活動内容を検討。学校や関係者に、児童生徒らの家庭も対象にした活動を行いたいと相談したところ、想像以上に多くの賛同が得られ、インドネシアにおいてはこれまでの最多となる182もの場所で活動を行うことができた。全体では9の国と地域において、1,593の学校、地域、家庭で活動が行われ、計7,209名が参加。「家族と一緒に環境について考える機会になった」という感想が聞かれるなど、身近な人たちと生物多様性について考える機会をつくり、地域に明るい話題を提供した。

またコロナ禍で思うようにCFP活動に参加できない子どもたちも多い中、「国連生物多様性の10年」の最終年を記念したポスターコンテストを実施。家庭でも参加できる取り組みということもあり、12か国の子どもたちから多く作品が寄せられた。選考に当たっては、各国で一次選考を通過した作品を年齢別の3部門に分けてウェブで公開し、CFP支援者を中心とした800名を超える日本の方々にもウェブ投票に参加いただいた。コロナ禍で現地に行くことが叶わない支援者の方々にも、投票という形で子どもたちの活動や思いに触れていただく機会となった。

④ 新たな環境教育のかたち

これまで学校を拠点として展開してきた環境教育については、対面授業が再開し、活動制限が緩和された国においては、感染予防に注意を払いながら、セミナーや農業実習、ごみの分別指導などの活動を徐々に再開することができたが、休校措置が続く国においては、学校や活動地への訪問も制限され、対面での活動を制限せざるを得ない状況が続いた。こうした国・地域においては、コロナ禍における子どもたちの生活や環境学習の支援となるよう、家庭を学びの場とした環境教育の支援も取り入れた。モンゴルやスリランカでは、経済面や栄養面での支えにもなるよう、野菜やハーブなどの種を配布し、家庭菜園づくりを支援。SNSなどを活用し、指導を行うとともに、参加者同士のコミュニケーションを図った。またインドネシアやミャンマーでは、エコキャンプなどの環境イベントができない代わりに、家庭でも実践できる環境保全の手法などを記した冊子を作成し、配布を行うなど、形を変えながらも環境意識を育む努力を続けている。

⑤ オンラインを活用した取り組みも広がる

また、オンラインを活用した取り組みも開始。フィリピンでは、毎年対面で行っていた全国ワークショップをオンラインに変更し、指導者向けと、子ども向けに分けてウェビナーを開催した。インターネット環境など課題はあるものの、オンラインだからこそ、遠隔地からの参加も可能になり、多くの地域からより多くの参加者を対象とすることができた。インドネシアにおいても、感染予防の観点から、指導者向けの全国ワークショップを6地域にて分散開催し、後程各地域のワークショップの成果を持ち寄る全国版の会議をオンラインにて開催するなど、オンラインと対面方式を併用し、地域を超えた連携や情報共有を図った。結果として、コロナ禍によって、これまでほとんど取り組めていなかったオンラインの活用に踏み出すことができたとも言える。今後も状況に合わせ、対面方式と併用して積極的に取り組んでいきたい。

■インドネシア 指導者向けワークショップ		
日付	地域	参加人数
2021/2/16	スカブミ県	36人
2021/2/18	カラングニアル県	32人
2021/2/25	ドゥマック県・ジュパラ県	23人
2021/2/27	トゥマングン県	9人
2021/3/9	スレマン県	23人
2021/3/13	スメネプ県	33人
2021/3/15	オンライン	48人
		合計204人
内容	講師による環境保全に関する講義・実技指導、参加者によるパンデミック期間中における活動報告、意見交換等	

■フィリピン 指導者向けウェビナー	
日付	2020/9/1～9/4
講義テーマ	新型コロナウイルス感染症と気候変動の関連、メンタルヘルスケア、教育の形態の変化等
参加人数	118人
■フィリピン 子ども向けウェビナー	
日付	2020/9/23
講義テーマ	効果的な在宅学習の方法、感染症対策、家庭でもできる環境保全活動等
参加人数	338人 ※YouTubeでも後日配信、3,100回以上再生されている（21年5月末時点）

3. 2020 年度「子供の森」計画 国別植林実績

累計実績：37 の国と地域の 5,343 校で実施

No.	活動実施国名	2020 年度		1991 年～ 累積		参加校数 総計	2020 年 新規校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	54	0.02	90,178	70.99	233	0
2	中国 (内モンゴル)	5,000	2.00	207,910	56.60	17	0
3	カンボジア	1,500	1.35	11,730	16.67	51	6
4	フィジー	7,036	6.69	803,165	586.46	65	0
5	インド	3,600	3.24	1,772,954	1239.67	2,116	19
6	インドネシア	12,898	12.46	421,239	535.52	434	6
7	マレーシア	100	0.60	90,016	82.83	238	0
8	ミャンマー	2,262	0.91	40,376	18.53	86	3
9	フィリピン	13,777	5.63	2,948,802	1101.80	1,141	18
10	パプアニューギニア	640	0.50	81,800	52.84	83	4
11	スリランカ	560	0.45	515,512	431.62	357	0
12	タイ	4,158	2.22	629,304	423.22	225	5
	*その他の国・地域	6,996	5.88	160,280	117.41	297	18
合計		58,581	41.94	7,773,266	4734.15	5,343	79

※上記データは 2021 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム、アフガニスタン



インドネシアでの植林活動
(カプラ第一高校)



ミャンマーにて新たに設置した手洗い場
(カンサト学校)

3. 人材育成事業

総括

当法人の活動で大きな柱として位置づけられている「人づくり」事業においては今年度、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を大きく受ける結果となった。それでも、国内研修センター受入の一般研修は、幸いコロナ感染拡大前の年明け早々に研修生が入国したことにより、例年通りアジア太平洋を中心とする14の国と地域から26名の青年を招聘し、それぞれの研修コースを概ね計画に従い実施することができた。

また、技能実習生の受入は5カ国から275名であった。数年前から受入が増加傾向にあるが、今年度は上述のとおりコロナ禍の悪化により、現地の在外日本大使館がVISA受付窓口を閉鎖するなどの対応を講じたことにより、来日が叶わなかった実習生も出てきて、受入実績は当初の計画よりもやや下回った。

国内の研修センターは一般研修はもちろんのこと、技能実習生の基礎研修の場として重要な役割を担っているが、その運営財源を主に支援者による会費や研修の成果物として生まれた余剰農産物の販売収益、また個人、法人からの寄付金等に頼っている。しかし、昨今の会員の減少や昨年度まで継続した企業による大口寄付等がなくなるなど、財源確保にも少なからず影響を及ぼしており、今後、取り組むべき重要課題の一つとして捉えている。

なお、今年度研修を修了した一部の国（フィジー・パプアニューギニア）の研修生が母国の航空事情により年度内の帰国が叶わず、センターでの滞在期間を延長することとなった。これはコロナ禍による今年度に限った例外的措置。

1) 一般研修事業

当事業は、中部日本、西日本、四国の各研修センターにおいて「農業技術」、「農業指導OB」、「家政」、「国際ボランティア」のコースに分かれて実施された。研修生は帰国後、母国の国づくりを担うリーダーとしての役割を担い先頭に立ってプロジェクトや各研修センターで農村開発や後進の育成に活躍していくことが求められており、研修生は派遣国の期待に応じて、それぞれが真剣に熱心に研修に取り組んだ1年であった。

農業分野では有機農業による栽培管理技術、マーケティングなど流通システムを学んだ。農村女性を対象に生活改善を目的とした家政研修では農産品による食品加工や調理、栄養学、洋裁、華道等を学び、既に帰国したOGたちの中には、インドネシアやミャンマーにおいて研修で習得した知識や技術を活かして活躍していることが報告されている。今年度は新たにメキシコの研修生2名が同研修に臨んだが、帰国後の彼女らの活躍と今後の同国における女性の生活改善分野の発展に期待したい。

一般研修では地域の青少年らとの交流や地元で開催されるイベント等への参加を通じて日本の伝統や文化を理解する機会を設けている。しかし、今年度はほとんどのイベント等が自粛となり、その機会が得られなかったのは残念であった。

他方、研修センター内での時間が増えたことにより、日頃の研修でやや理解不足だった内容をさらに掘り下げて学ぶ機会に置き換えるなど、研修生にとっては理解向上につながったとしてプラスに捉える面もあった。

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

研修科目 \ 国別	フィリピン	インドネシア	マレーシア	メキシコ	モンゴル	ミャンマー	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	タイ	インド（チベット）	合計
国際協力ボランティア	1		1	1							3
農業技術	2	1	1	2	1	1	1		1	1	12
家政				1		1			1		3
農業指導 OB							2	1			3
地域開発	1				1	1	1	1			5
合計	4	1	1	4	3	2	3	2	2	1	26

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
西日本研修センター(14名)				
1	Mr. Derick Valuka Gare	パプアニューギニア	農業指導 OB	2019. 3～2020. 11
2	Ms. Nurul Raudah Bin Azman	マレーシア	家政科研修	2019. 4～2021. 2
3	Mr. Yumop Benjamin	パプアニューギニア	農業指導 OB	2020. 1～2022. 1
4	Mr. JeremieOcumenTrube	フィリピン	農業指導 OB	2020. 2～2022. 1
5	Mr. Paula Nokomaivuna	フィジー	農業技術	2020. 1～2021. 6
6	Mr. NipunchandKandothchand	インド	農業技術	2020. 2～2020. 12
7	Ms. Hana Ayumi	インドネシア	農業技術	2020. 2～2021. 2
8	Mr. Norsyafiena Binti Syed Ibrahim	マレーシア	農業技術	2020. 1～2021. 2
9	Mr. Martin Osorio Hernandez	メキシコ	農業技術	2020. 1～2020. 10
10	Mr. NyamdelgerTsegmid	モンゴル	農業技術	2020. 1～2021. 3
11	Mr. Kyaw Zin Wine	ミャンマー	農業技術	2020. 2～2021. 1
12	Mr. Max Nandre	パプアニューギニア	農業技術	2020. 1～2022. 1
13	Mr. Tenzin Paldon	チベット(インド)	農業技術	2020. 2～2020. 12
14	Ms. Judith Flores Andrade	メキシコ	国際協力 ボランティア	2020. 1～2020. 10
中部研修センター(5名)				
15	Ms. Nur Bari' ah Binti Bairullah	マレーシア	国際協力 ボランティア	2018. 8～2020. 8
16	Ms. ModrauMereseiniVakaoa	フィジー	国際協力 ボランティア	2018. 11～2021. 6
17	Mr. LaiseniaDolo	フィジー	農業技術	2020. 1～2021. 6
18	Mr. Sharif Azwan Shah Bin Talib	マレーシア	農業技術	2020. 2～2021. 1
19	Mr. DuangdenPalaaud	タイ	農業技術	2020. 2～2021. 2
四国研修センター(7名)				
20	Ms. ThetThet Hlaing	ミャンマー	家政科研修	2019. 2～2020. 10
21	Ms. MereulaLewaqona	フィジー	地域開発	2020. 2～2021. 6
22	Ms. Paola Ortiz Salazar	メキシコ	地域開発	2020. 2～2020. 12
23	Mr. Nyam-OchirBaldorj	モンゴル	地域開発	2020. 2～2021. 2
24	Ms. Aye Aye Nyein	ミャンマー	地域開発	2020. 2～2021. 1
25	Mr. JomarieGalapon Caiman	フィリピン	地域開発	2020. 2～2020. 12
26	Ms. Ploy Samdaeng	タイ	地域開発	2020. 2～2021. 8

2) 技能実習事業

① 農業技能

オイスカの国内研修センター内で実施される研修課目以外に、外部の農家等に委託して行う技能実習を現地送り出し機関の強い要望により実施した。技能実習生は入国後、国内研修センターで約2カ月間の日本語・生活習慣等を身につける集団講習修了後、それぞれの委託先へ配属される。実際の現場で技術・技能を身につけることができ、実習修了後母国に帰り即戦力の人材として期待されることが本事業の大きな特色である。これらの農業技術の習得は地域開発の即戦力的な人材として農村社会の振興に寄与している。

オイスカ及び受け入れ機関が優良団体であればこれまでの3年間から最大5年間の受入れが可能となり、4年目、5年目の実習生の受入れも実施した。

No	氏名	国名	委託先	期間
耕種農業(施設園芸) 2名				
1	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	宇江城安勝	2016.7～2021.8
2	Mr. PrezaZulueto II Talledo	フィリピン	宇江城安勝	2016.7～2021.8
耕種農業(畑作・野菜) 74名				
3	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	外間宏喜	2016.7～2021.8
4	Mr. Roc John Benedick Bersalona	フィリピン	外間宏喜	2016.7～2021.11
5	Mr. Barbero John Mc Lean Sunio	フィリピン	外間年男	2016.7～2021.11
6	Mr. LabaoanAquillesBalueg	フィリピン	外間年男	2016.7～2021.8
7	Mr. Belleza Henry Ballo	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2022.1
8	Mr. LucbanDindo Jr Bagtas	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2022.1
9	Mr. Regunton Bernard Zales	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2021.11
10	Mr. PioquintoRestyLentijas	フィリピン	大城典一	2017.8～2020.8
11	Mr. Junas Jayson Junsay	フィリピン	沖山聖	2017.8～2020.8
12	Mr. Mata Jaymar Arsenio	フィリピン	儀間勉	2017.8～2020.8
13	Mr. Amar JoeffreyEspayos	フィリピン	比嘉憲司	2017.8～2020.8
14	Mr. To Van Dung	ベトナム	玉城盛仁	2017.8～2020.8
15	Mr. Truong Quoc Tuan	ベトナム	上江洲実	2017.8～2020.8
16	Mr. Duong Kim Hoang	ベトナム	上江洲実	2017.8～2020.8
17	Mr. Tran Minh Dien	ベトナム	島袋政信	2017.8～2020.8
18	Mr. Callejo Mark Anthony Silario	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2017.9～2020.9
19	Mr. Silvania Dexter Carbonel	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2017.9～2020.9
20	Mr. Budi Joko Santoso	インドネシア	玉城忍	2017.12～2020.12
21	Mr. BayuPrasetyo	インドネシア	(有)さぬき新栄	2018.3～2021.3
22	Mr. Dedek Tri Wahyudi	インドネシア	(有)さぬき新栄	2018.3～2021.3
23	Mr. Karin Novitasari	インドネシア	(有)さぬき新栄	2018.3～2021.3
24	Mr. Wardi	インドネシア	榎木下	2018.3～2021.3
25	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2021.5
26	Mr. Benitez RamilCuevo	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2021.5
27	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2021.5
28	Mr. ImanuelLaupra	インドネシア	前堀啓二	2018.8～2021.8
29	Mr. Princena Christian Benosa	フィリピン	山本一守	2018.9～2021.9
30	Mr. Muhammad Ali Ridho	インドネシア	仲吉勝弘	2018.11～2021.11
31	Mr. Ahmad Kamal Fasya	インドネシア	仲吉勝弘	2018.11～2021.11
32	Mr. Pitus	インドネシア	中村伸次	2018.11～2021.11
33	Mr. Anggi Deni Supriyanto	インドネシア	金城敏	2018.11～2021.11
34	Mr. Imam Saputra	インドネシア	大城清広	2018.11～2021.11
35	Mr. BenyAdjiSaputro	インドネシア	大城清助	2018.11～2021.11

36	Mr. Darwin Simanjuntak	インドネシア	竹内農場	2018.11～2021.11
37	Mr. WisnuNugraha	インドネシア	玉城忍	2018.12～2021.12
38	Mr. Muhammad Isa Sayti	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
39	Ms. Desi Milawati	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
40	Ms. Dara KarticaSembiring	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
41	Mr. AinurRasyid	インドネシア	(株)木下	2019.4～2022.4
42	Mr. Sibuyan Delmar Dizon	フィリピン	農業生産法人有限会社ク ラントパオニア宮平	2019.7～2020.11
43	Mr. BebosoGeneil Aurea	フィリピン	農業生産法人アグリスポート 南大東(株)	2019.7～2022.7
44	Mr. Cordero JoemarSison	フィリピン	農業生産法人アグリスポート 南大東(株)	2019.7～2022.7
45	Mr. BorresElizierDula	フィリピン	農業生産法人アグリスポート 南大東(株)	2019.7～2022.7
46	Mr. PajarilloJohndel Trinidad	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
47	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
48	Mr. TrubeDivinoMarcellana	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
49	Mr. Sabuero Giovanni Ataylar	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.8
50	Mr. Amparo Mark Lester De Guia	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.8
51	Mr. Ocumen Joseph Palara	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.8
52	Mr. Rifqi Hanif	インドネシア	農業生産法人合同会社渡 眞利農園	2019.9～2022.9
53	Mr. Gulam Alhattaq	インドネシア	農業生産法人合同会社渡 眞利農園	2019.9～2022.9
54	Mr. Rizal Mustika	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.9
55	Mr. Adi Suryanto	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.9
56	Mr. DanarAshipaSalsabil	インドネシア	大城松太	2019.9～2022.9
57	Mr. Ballacillo Rowel Artienda	フィリピン	山本農園 (山本一守)	2019.10～2021.10
58	Mr. Susilo Irawan	インドネシア	中村伸次	2019.11～2021.11
59	Mr. Puji Wahyu Utomo	インドネシア	中村伸次	2019.11～2021.11
60	Mr. Yoshiki	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
61	Mr. Samsul Gay	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
62	Mr. Caampued Julie Nunez	フィリピン	石川拓	2019.11～2021.11
63	Mr. Sumarno	インドネシア	(株)美ら島	2019.12～2021.12
64	Mr. Prayitno	インドネシア	(株)美ら島	2019.12～2021.12
65	Mr. IrsadulNgibat	インドネシア	中村伸次	2019.12～2022.12
66	Mr. Madoginog Roy Amorte	フィリピン	上瀧和敏	2020.1～2023.1
67	Mr. UusUsrofil	インドネシア	(株)和伊耕産	2020.1～2022.1
68	Ms. Febri Rahmawati	インドネシア	(有)さぬき新栄	2020.3～2023.3
69	Ms. Susi Eriyani	インドネシア	(有)さぬき新栄	2020.3～2023.3
70	Mr. Seares Reymond Nino	フィリピン	北日本菅与(株)	2020.12～2022.12
71	Ms. Hana Oktaviana	インドネシア	(有)福井園芸	2020.12～2023.12
72	Ms. Maryani	インドネシア	(有)福井園芸	2021.1～2024.1
73	Mr. TarrazonaJomaverTelebrico	フィリピン	大城 典一	2020.12～2023.12
74	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	沖山 聖	2020.12～2023.12
75	Mr. Paborada Noel Jr. Bulanon	フィリピン	金川均	2020.12～2022.12
76	Mr. RequironStenielCabayao	フィリピン	金川均	2020.12～2022.12
耕種農業(果樹) 5名				
77	Mr. Heri	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2018.9～2021.9
78	Mr. Muhamad MiladiAminyoga	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2018.9～2021.9
79	Mr. Syafii	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2018.9～2021.9
80	Mr. Luong Van Kiep	ベトナム	小豆島ヘルシーランド(株)	2020.11～2022.11
81	Ms. Nguyen Thi Ngoc Mao	ベトナム	小豆島ヘルシーランド(株)	2020.11～2022.11
畜産農業(養鶏) 5名				
82	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	(株)カクタマコ	2019.3～2022.3
83	Mr. TelebricoGelo Barcelo	フィリピン	(株)カクタマコ	2020.2～2023.2
84	Mr. SusarnoJhobet Los Banes	フィリピン	(株)カクタマコ	2020.10～2022.10

85	Mr. TanacioFrodanAblaza	フィリピン	(株)カクイタマコ	2020.10～2022.10
86	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	(株)カクイタマコ	2020.12～2022.12
畜産農業(養豚) 32名				
87	Mr. BaldemorElimhar Tobias	フィリピン	(株)菅与	2017.6～2021.2
88	Mr. BendiolaJamiel Carlos	フィリピン	(株)菅与	2017.6～2022.7
89	Mr. ValerosDexelPilarta	フィリピン	(株)菅与	2017.6～2022.7
90	Mr. Brub Dexter Nartatez	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2017.9～2022.10
91	Mr. ZawZaw Win	ミャンマー	トヨタファーム	2017.12～2020.12
92	Mr. Than Zaw	ミャンマー	トヨタファーム	2017.12～2020.12
93	Mr. Aquino Ariel Vasquez	フィリピン	(有)日向養豚	2018.5～2021.5
94	Ms. AsueloMeryjane Busto	フィリピン	(有)吉田畜産	2018.6～2020.11
95	Mr. Balicao Ernie Rodavia	フィリピン	(株)菅与	2018.8～2021.8
96	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	(株)菅与	2018.8～2021.8
97	Mr. GavanesJanuaris Sotelo	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2018.9～2021.9
98	Mr. Barcena Gerri Rejoso	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2018.9～2021.9
99	Mr. KhunMaung Shan	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2021.12
100	Mr. Myo Min Than	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2021.12
101	Mr. Claro Daryll Baruela	フィリピン	(株)菅与	2019.6～2022.6
102	Mr. Guinaban Ruben Gayban	フィリピン	(株)菅与	2019.6～2022.6
103	Mr. Bob Romel Eduardo	フィリピン	(株)菅与	2019.6～2022.6
104	Mr. Dion Kevin Lloyd Gallardo	フィリピン	(有)日向養豚	2019.8～2022.8
105	Mr. Ayco Roland Bersalona	フィリピン	(有)日向養豚	2019.8～2022.8
106	Mr. Flores Ronnel Cortez	フィリピン	(株)菅与	2019.8～2022.8
107	Mr. Talingdan Narciso Balucas	フィリピン	(有)吉田畜産	2019.8～2021.8
108	Mr. Longenos Freddie Juan	フィリピン	(株)菅与	2019.8～2021.8
109	Mr. MagalaArnel Tan	フィリピン	(株)菅与	2019.8～2021.8
110	Mr. Buhian James Albos	フィリピン	(株)菅与	2019.8～2021.8
111	Mr. BaldemorRacie Jay Alejandro	フィリピン	(有)吉田畜産	2019.9～2022.9
112	Mr. Tadeo Jhon Jovi Cada	フィリピン	(株)菅与	2020.1～2022.1
113	Mr. Echipare Cristopher Rombawa	フィリピン	(株)菅与	2020.1～2022.1
114	Mr. Dondonan Salvador Jr. Banaga	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2020.1～2023.1
115	Mr. BarcenaJhonfordLapena	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2020.1～2023.1
116	Mr. SoePaing	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2023.2
117	Mr. Aung Than Lin	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2023.2
118	Mr. Trinidad John Patrick Algarne	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2020.12～2022.12
畜産農業(酪農) 5名				
119	Ms. ZabanalSherayneCaes	フィリピン	(有)アイ・アイ・ティ	2016.9～2022.1
120	Ms. PesaAngelee Vargas	フィリピン	(株)MOO MOO	2019.7～2022.7
121	Ms. Pascual Mariel Hipolito	フィリピン	(株)MOO MOO	2019.7～2022.7
122	Ms. D SusetteSemuil	マレーシア	(有)小池牧場	2020.11～2022.11
123	Mr. BarberoFerickPiscien	フィリピン	岡牧場	2020.1～2022.1

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
耕種農業（施設園芸）				2		2
耕種農業（畑作・野菜）	35			35	4	74
耕種農業（果樹）	3				2	5
畜産農業（養鶏）				5		5
畜産農業（養豚）			6	26		32
畜産農業（酪農）		1		4		5
合計	38	1	6	72	6	123

② 工業及び介護技能

開発途上国が産業発展を推し進める中で、先進諸国での当該技術の習得を希望する青年は少なくない。その一方で、日本では頒布されて久しい工業技術も途上国では依然として多くの地域で不足し必要とされている。当法人では、工業技術の領域を広げ、そうした多様なニーズに対応するため、工業分野において技能実習制度を導入している。

また実際の会社組織の一員となることで現場社会の厳しさや責任感を身につけることができる。研修現場では評価も高く、委託企業担当者も本事業の趣旨に賛同し積極的に指導して頂き国際協力の現場として担っていただいている。

介護技能実習生の受入れ企業も増加し、国内で需要が増加している分野についても国内産業の振興を視野に受入れを行っていく。

オイスカ及び受け入れ企業が優良団体であればこれまでの3年間から最大5年間の受入れが可能となり、4年目、5年目の実習生の受入れも実施した。

No	氏名	国名	委託先名	期間
機械加工 2名				
1	Mr. Muhamad AimanSyahmi Bin Kamsul	マレーシア	㈱大洋製作所	2018.2～2021.2
2	Mr. Muhammad Abdur Rauf Bin Omar	マレーシア	㈱大洋製作所	2018.2～2021.2
機械保全 3名				
3	Mr. Marmeto Neil James Barbosa	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.3～2022.3
4	Mr. Singuelas Eric John Fortuno	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.3～2022.3
5	Mr. Marmeto Nazir Jason Barbosa	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.10～2021.10
建設機械施工 12名				
6	Mr. Mohd Ashraf Bin Ibrahim	マレーシア	中村建設㈱	2018.3～2021.3
7	Mr. AidilSyaffuan Bin Sulaiman	マレーシア	中村建設㈱	2018.3～2021.3
8	Mr. Muhamad Iqbal Bin Farai	マレーシア	ヤマト建設㈱	2018.12～2021.12
9	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	㈱秋重建設	2019.7～2022.7
10	Mr. PendikJatmiko	インドネシア	㈱秋重建設	2019.7～2022.7

11	Mr. Sadi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2022.7
12	Mr. IsamFauzi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2022.7
13	Mr. Mohamad Helmy Bin Masran	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
14	Mr. Sheikh Denial Bin Sh Ishak	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
15	Mr. Muhammad Annuar Bin MohdSapuan	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
16	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2019.12～2021.12
17	Mr. Muhammad Amirul Hakim Bin Isha	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2020.2～2023.2
塗装 7名				
18	Mr. TrubeJoemarOcumen	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2016.9～2021.11
19	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	(株)ヤキザリ自動車販売	2017.4～2022.4
20	Mr. Tesoro Keith AngeluAvero	フィリピン	(株)山陰オアシス	2017.9～2022.9
21	Mr. Luna Benjie Moring	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2022.4
22	Mr. Flores Angelo Abit	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2022.4
23	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2019.7～2022.7
24	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	(株)山陰オアシス	2019.9～2021.9
冷凍空気調和機器施工 10名				
25	Mr. Aminuddin Bin Abd Majid	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2018.2～2021.2
26	Mr. IkhmalRiezzal Bin Rusetam	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2018.2～2021.2
27	Mr. Muhammad Hamizan Bin Zulkifli	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2018.3～2021.3
28	Mr. Muhamad Ridhwan Bin Abdul Rahman	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2018.3～2021.3
29	Mr. Muhammad Ridzuan Bin Jaafar	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2019.2～2022.2
30	Mr. Muhammad Haiqal Bin MohdYunus	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2019.2～2022.2
31	Mr. Nik Muhammad FauzanNaim Bin Nor Azan	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2019.9～2022.9
32	Mr. MohdAiman Bin Mohamad Adam	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2019.9～2022.9
33	Mr. Muhammad Nazimmuddin Bin Md Nazir	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2020.11～2023.11
34	Mr. Muhammad Amirul Idham Bin Abd Latif	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2020.11～2023.11
溶接 9名				
35	Mr. Bermudez ReymundCuerbo	フィリピン	(株)マイテック	2018.1～2023.1
36	Mr. Lozada Jake Bacuna	フィリピン	(株)マイテック	2018.8～2021.8
37	Mr. SamiaArbnelAguelera	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2022.4
38	Mr. Clemente Ian JayoNoceja	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2022.4
39	Mr. Cuizon Reynaldo Jr. Yangyang	フィリピン	(株)マイテック	2019.8～2021.8
40	Mr. Menor Rudner Laurente	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2022.11
41	Mr. Librando Rey Alde	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2022.11
42	Mr. Caballero Philip Helardino	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2020.11
43	Mr. DacumosReychon Villegas	フィリピン	(株)マイテック	2020.12～2022.12
鉄筋施工 17名				
44	Mr. CallenaNomer Cacho	フィリピン	(有)明星工業	2016.10～2021.11
45	Mr. Domingo Samuel Jr. Tadeo	フィリピン	(有)明星工業	2016.10～2021.11
46	Mr. Balbuena Allain JoyleAndia	フィリピン	(株)ノセブレコン	2016.12～2022.2
47	Mr. Bringas Michael SenrickBarila	フィリピン	(株)ノセブレコン	2016.12～2022.2
48	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2023.1
49	Mr. Santiago Reynel Bio	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2023.1
50	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	(株)ノセブレコン	2017.12～2022.12
51	Mr. BodonaDiomar Rayan Rafael	フィリピン	(株)ノセブレコン	2017.12～2022.12
52	Mr. MangmaReymarkWalohan	フィリピン	(株)ノセブレコン	2017.12～2022.12
53	Mr. TalingdanJerwinBaisa	フィリピン	(株)ノセブレコン	2019.1～2022.1
54	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	(株)ノセブレコン	2019.1～2022.1
55	Mr. Garcia Dickson Sylvania	フィリピン	(株)ノセブレコン	2019.1～2022.1
56	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	(株)ノセブレコン	2019.9～2021.9
57	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	(株)ノセブレコン	2019.9～2021.9
58	Mr. Bacarisa Jeffrey Iverson Beng-Ad	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
59	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
60	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2021.11
配管 2名				

61	Mr. Muhammad AsyraafHamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
62	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
鋳造 9名				
63	Mr. Quidato Joseph Jimenez	フィリピン	白龍産業(株)	2017.9～2020.7
64	Mr. Bagtas Mark AnjeloCaballa	フィリピン	白龍産業(株)	2017.9～2020.9
65	Mr. PasaguiJhelmarUnlayao	フィリピン	白龍産業(株)	2017.9～2020.9
66	Mr. Tan Geronimo Egana	フィリピン	白龍産業(株)	2018.9～2021.9
67	Mr. Revilla John Paulo Garganta	フィリピン	白龍産業(株)	2018.9～2021.9
68	Mr. Paulino Karl Cruz	フィリピン	白龍産業(株)	2018.9～2021.9
69	Mr. Gonzales Alvin Abrigo	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.10
70	Mr. Evangelista Dexter Ortalla	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.10
71	Mr. CerezoRedenMacasaet	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.10
型枠施工 3名				
72	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	三登建設(株)	2018.3～2021.3
73	Mr. Wan Muhammad Danial Bin Wan Huzainizam	マレーシア	三登建設(株)	2018.9～2021.9
74	Mr. Muhammad ArieffAizuddin Bin Mahrol	マレーシア	三登建設(株)	2019.9～2022.9
電子機器組み立て 1名				
75	Mr. Muhammad Syukri Bin Hashim	マレーシア	(株)正興電機製作所	2018.9～2021.9
表装 1名				
76	Mr. Muhammad Zaimul Amin Bin Mohammad Zaim	マレーシア	(有)大地企画	2016.10～2021.12
建具製作 8名				
77	Mr. ArtoDeniyanceBotau	インドネシア	(株)オーカ	2017.10～2022.12
78	Mr. LathifAminudin	インドネシア	(株)オーカ	2017.10～2022.12
79	Mr. Wahid Husen Toyo	インドネシア	(株)オーカ	2017.10～2022.12
80	Mr. Hasan Mukadar	インドネシア	(株)オーカ	2017.10～2022.12
81	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	(株)オーカ	2019.3～2022.3
82	Mr. Fahrul	インドネシア	(株)オーカ	2019.3～2022.3
83	Mr. Lewi GulidSambonu	インドネシア	(株)オーカ	2019.3～2022.3
84	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	(株)オーカ	2019.3～2022.3
自動車整備 19名				
85	Mr. AmirnurHazmi Bin Mohd Azmi	マレーシア	(有)ワイルドグース	2017.12～2020.12
86	Mr. Ahmad Khushairi Bin Zainuddin	マレーシア	浅丘自動車整備(株)	2018.4～2021.4
87	Mr. Muhammad Anwar Bin Abd Halim	マレーシア	浅丘自動車整備(株)	2018.4～2021.4
88	Mr. Mohammed DzulAmni Bin Zulkefli	マレーシア	愛知ダグイッツ(株)	2018.4～2021.4
89	Mr. Muhammad Faris Bin Feshol	マレーシア	愛知ダグイッツ(株)	2018.4～2021.4
90	Mr. MohdArif Fahmi Bin Azha	マレーシア	(有)ワイルドグース	2018.12～2021.12
91	Mr. Mohd Hafizi Bin Che Mohd Noor	マレーシア	愛知ダグイッツ(株)	2019.5～2022.5
92	Mr. Muhammad Farihin Bin Sazali	マレーシア	愛知ダグイッツ(株)	2019.5～2022.5
93	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	(株)タイシ重機サービス	2019.9～2022.9
94	Mr. Fernandez GlizaldrenNograles	フィリピン	(株)タイシ重機サービス	2019.9～2022.9
95	Mr. Mohamad Ariff Bin Mohamed Roseli	マレーシア	埼玉ダグイッツ(株)	2020.1～2023.1
96	Mr. Wan Muhammad Izzat Arshad Bin Zakariah	マレーシア	埼玉ダグイッツ(株)	2020.1～2023.1
97	Mr. Ahmad Syakir Fahmi Bin MohdZaki	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売(株)	2020.1～2023.1
98	Mr. MohdMazri Bin MohdKhair Johari	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売(株)	2020.1～2023.1
99	Mr. Muhammad Hakimi Bin Kamardin	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売(株)	2020.1～2023.1
100	Mr. SyazwanAsyraaf Bin Sharip	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売(株)	2020.1～2023.1
101	Mr. Muhammad Zaini Bin Hashim	マレーシア	(有)ワイルドグース	2020.2～2023.2
102	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	秋田ダグイッツ販売(株)	2020.11～2023.11
103	Mr. Muhammad Fazellie Bin Namberom	マレーシア	秋田ダグイッツ販売(株)	2020.11～2023.11
工業包装 11名				
104	Ms. Tuguinay Helen Marie Caridad Alivalera	フィリピン	ネクスタラビィ(株)	2018.9～2021.9
105	Ms. Factor Maria Divina Rano	フィリピン	ネクスタラビィ(株)	2018.9～2021.9
106	Ms. TuanquinMarydelDexiePilor	フィリピン	ネクスタラビィ(株)	2018.9～2021.9

107	Ms. Barreyro Hermie Lumaoig	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
108	Ms. Respicio Kathleen Mae Arias	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
109	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
110	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
111	Ms. Batalon Amelia Bo	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
112	Ms. Vicente Milagros Gandeza	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
113	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
114	Ms. BanezJenniferTeneza	フィリピン	ネクスタラビィイ株	2020.1～2023.1
ロータリー式さく井工事 2名				
115	Mr. Repollo Ryan James	フィリピン	株常総興業	2019.1～2022.1
116	Mr. Saturno Walter Sablay	フィリピン	株常総興業	2019.1～2022.1
射出成型 3名				
117	Mr. Arquion Allen Kris Fernandez	フィリピン	工業化成株鈴鹿工場	2019.2～2022.2
118	Mr. Magsanay Mark Anthony Marabe	フィリピン	工業化成株鈴鹿工場	2019.2～2022.2
119	Mr. Revilla John Carlo Garganta	フィリピン	工業化成株鈴鹿工場	2019.2～2022.2
ビルクリーニング 4名				
120	Ms. Nguyen Ngoc Ha	ベトナム	株朱禧	2019.2～2021.4
121	Mr. Nguyen Van Quan	ベトナム	株朱禧	2019.2～2022.2
122	Mr. Nguyen Ngoc Son	ベトナム	株朱禧	2019.2～2022.2
123	Ms. Phan Thi Ngoc Thuy	ベトナム	株朱禧	2019.2～2022.2
鉄工 2名				
124	Mr. Alif DityasPangestu	インドネシア	株鶴田工業	2020.3～2023.3
125	Mr. Abdul RajakIpaenin	インドネシア	株鶴田工業	2020.3～2023.3
防水施工 1名				
126	Mr. PaatJunelBabida	フィリピン	株アルファ技研	2020.2～2023.2
牛豚食肉処理加工業 2名				
127	Ms. Sibuyan Easther Cindy Dizon	フィリピン	中王食肉株	2019.10～2022.10
128	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	中王食肉株	2019.10～2022.10
介護 16名				
129	Ms. Suarnaba Kellie Marie Alojado	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
130	Mr. Paredes RanjuAnjao	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
131	Ms. Aye Myat Mon	ミャンマー	株やさしい手	2019.12～2022.12
132	Ms. Hnin Hnin Aung	ミャンマー	株やさしい手	2019.12～2022.12
133	Ms. Naw May Tar BluteHtoo	ミャンマー	株やさしい手	2019.12～2022.12
134	Ms. Htet Yi Win	ミャンマー	株やさしい手	2019.12～2022.12
135	Ms. ThetHtarSwe	ミャンマー	株やさしい手	2019.12～2022.12
136	Ms. Olvinada Aubrey Belarmino	フィリピン	医療法人社団湖仁会	2020.1～2023.1
137	Ms. Sabolbora Erika Espanueva	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
138	Ms. Garcia Rho Ann Toding	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
139	Ms. Ocampo DorathyMescula	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
140	Ms. Guzman Jenny Denosta	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
141	Ms. Aquilesca Erica Medel	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
142	Ms. Balonzo Paula Jo Nunez	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
143	Ms. Daulong Frances Aubrey Lupo	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
144	Mr. Agio JulymarFortaliza	フィリピン	生活介護サビィイ株	2020.1～2023.1
145	Ms. Nguyen Thi Thuy Quyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
146	Ms. Le ThiDuyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
147	Ms. Lang Thi Phuong Dung	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
148	Ms. Tran Thi My Hue	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
149	Ms. Huynh Thi Ngoc Thuy	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
150	Ms. DanhThi Thu Mai	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
151	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	有山本	2020.12～2023.12
152	Ms. Sombong Ma Eden Eusebio	フィリピン	有山本	2020.12～2023.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国 別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
機械加工		2				2
機械保全				3		3
建設機械施工	4	8				12
塗装		1		6		7
冷凍空気調和機器施工		10				10
溶接				9		9
鉄筋施工				17		17
配管		2				2
鋳造				9		9
型枠施工		3				3
電子機器組み立て		1				1
表装		1				1
建具製作	8					8
自動車整備		17		2		19
工業包装				11		11
ロータリー式さく井工事				2		2
射出成型				3		3
ビルクリーニング					4	4
鉄工	2					2
防水施工				1		1
牛豚処理加工業				2		2
介護			5	13	6	24
合計	14	45	5	78	10	152

※以下の研修生は研修ビザで入国し、研修しました。

手袋製造2名			
Ms. NaweNaweTheint	ミャンマー	(株)クロダ	2020.2～2021.2
Ms. Yin YinKhaing	ミャンマー	(株)クロダ	2020.2～2021.2

3) 日本青年育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与してきた。しかし近年わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。

そうしたなか、将来この分野での貢献を目指そうとするわが国の数少ない若者たちの育成は欠かすことのできない喫緊の課題である。

本事業では、国内外で推進する国際協力活動及び関連業務（活動）を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国 NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。前期と後期のそれぞれ半年の2回に分け、本年度は前期1名、後期1名の計2名の実施となった。

前期の1名は、全期間を西日本研修センターでの活動として、海外研修生と寝食を共にしながら、それぞれ出身国の実情について意見を交わすなど、開発途上国が抱える問題等を通じて国際協力についての理解向上を図った。後期の1名は JOCV 隊員として南米に派遣されていたところ、新型コロナウイルス感染症拡大により途中帰国を余儀なくされたものの国際協力への夢を諦めきれずオイスカにその活動の機会を求めてきた。オイスカ本部での体験業務を中心に西日本研修センター及び中部研修センターでの約1ヶ月間の活動を行った。両名ともにオイスカの国際協力に対する理解が深まったこととして次年度より新たな職員として加わり活動することになった。

前期

- 1) 対象者：1名
- 2) 研修期間：令和2年4月1日～令和2年9月30日
- 3) 名簿

氏名	性別	研修場所
飯川 啓基	男	西日本研修センター

後期

- 1) 対象者：1名
- 2) 研修期間：令和2年10月1日～令和3年3月31日
- 3) 名簿

氏名	性別	研修場所
大垣 直哉	男	オイスカ本部、西日本研修センター、中部日本研修センター

4. 啓発普及事業

総括

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を予定していた行事やイベント出展等の自粛で延期や中止となり、当初の事業計画にあった啓発普及活動が実施できず大幅な変更が余儀なくされた。特に海外視察・ボランティア派遣はすべて中止となった。

しかし13の支部と41の支援組織（活動推進協議会）を中心に国内での啓発普及活動においてはオンライン等での取り組みもおこなっているが、個人の賛助会員の年齢層が全国的に高い傾向があり今後の活用については新たな施策が求められる。またコロナ禍においては新規会員の入会のきっかけとなる行事やイベントなどの開催ができず伸び悩みと継続していただけない既存会員の方々が多数のため、現状維持はできたものの当初目標としていた賛助会員数は達成できなかった。全体的に会員減少傾向の状況にあり、次年度以降、会員減少傾向を防ぐため、ホームページやSNS等の情報発信の強化、従来の各種会合等のネット化を推進し、定期的にWeb活動報告会を開催するなどコロナ禍の国際協力活動を充実した形で発信し、引き続き重要な課題として取り組み努力していく必要がある。

日本国内での森林保全活動においても、森林整備の体験活動や自然体験などは中止となり、現場に足を運んでいただくような活動はほぼ開催できず、必要な作業については、地元林業者や関係者の協力を得ながらの実施となった。

一方、オイスカの活動地の間伐材を利用した木製のSDGsバッジをNPO法人木netやまなしとの協働により提案・製作し、現在、注目されている持続可能な開発目標「SDGs」への取組の一つとして、会員企業・団体を中心に多数導入いただくことができた。また、「富士山の森づくり」をきっかけに地元地域に蒸留所が立ち上がり、富士山のシラベの枝葉を活用した「富士山の森の香り」のアロマアルコールスプレーが開発された。そのアルコールスプレーを新型コロナと闘う医療従事者に届けるプロジェクトに多くの賛同をいただき、保健所や病院への寄贈が実現した。コロナ禍で多くの逆境があったが、間接的であっても、多くの人に森の恵みを感じていただき、併せて国産材の有効活用や山村地域の活性化に寄与できた。しかし、今後、活動や活動への参加のかたちが変わっていくなかで、常に新しい発想や提案が求められていくことを意識し、行動していかなければならない。

1. 国内啓発普及活動

全国各地で各種講演会・セミナー等の開催、海外ボランティア派遣や視察など体験活動を通じて多くの市民、企業、自治体が関われるよう参加型の啓発普及活動を当初は計画したが、コロナの影響を受け多くの活動において縮小、延期、中止を余儀なくされた。

1) 講演会・セミナー等の開催

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
本部	海岸林再生プロジェクト 活動報告会・講演会	年 11 回	1,392 名	4 都県
本部	海岸林再生プロジェクト 現地視察団受け入れ	3 回	14 名	宮城県名取市
北海道支部	「いのちの大切さを考える月間」 いのちを考えるカフェテリア	10 月 30 日	40 名	札幌市内
首都圏支部	国際協力推進懇談会	隔月	各 20 名	東京都内
富山県支部	活動報告会	5 月 30 日	58 名	オンライン開催
静岡県支部	西部地区推進委員会	11 月 30 日	15 名	浜松市内
	オイスカ支援委員会	3 月 8 日	15 名	
愛知県支部	名古屋北推進協議会発足式	6 月 18 日	21 名	名古屋市内
	活動報告会	2 月 8 日	15 名	オンライン開催
	海岸林後援会	2 月 20 日	60 名	サンライブ (愛知県内)
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	2 月 12 日	30 名	オンライン開催
岐阜県支部	岐阜県議会活動報告会	6 月 24 日	60 名	岐阜県庁
	オイスカ活動報告会	5 月 23 日	30 名	大垣市内
関西支部	関西のつどい (講演会収録)	8 月 7 日	10 名	DVD 配布
西日本支部	福岡県議連総会・活動報告会	6 月 11 日 12 月 8 日	70 名	福岡県庁
	佐賀県議会オイスカ国際活動促進議員連盟設立総会	8 月 31 日	50 名	佐賀県庁
西日本支部 佐賀県推進協議会	48th ラブ・グリーンの翼 2020 IN THAI PHANG-NGA	2 月 19 日	多数	オンライン開催
西日本支部	海外研修生修了式	12 月 19 日	70 名	西日本研修センター

2) インターネット・SNS 等での情報配信、普及資料の作成・配布

①月刊 「OISCA」 発行

年間 10 回発行（毎月約 6100 部に加え 8・9 月の合併号は 15,000 部）し、会員のほか、公官庁や各種団体などに送付した。

②各種団体のサイトで情報発信

JANIC、JICA、ACTIVO、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）などの情報提供サイトでイベント・ボランティア情報の告知をおこなった。

③メールマガジン・SNS 等での情報発信

月刊誌で取り上げた各国の活動状況や国内での啓発普及活動を最新情報として配信したほか、全国で開催するイベント・ボランティア情報の告知を積極的におこなった。また毎月第 2・4 金曜日に各種募集情報を中心とした最新情報を掲載したメールマガジンを配信した。

④北海道支部設立 35 周年記念誌「オイスカ北海道 35 年の足跡」発行

北海道支部設立 35 周年記念し、北海道でのオイスカ活動の支援の輪が北海道全体へと広がり、協力活動がアジア太平洋からさらに広く世界へと展開されていくことを祈念し、35 周年記念誌の発刊に寄せた。

⑤Web 活動報告会の開催

今年度は、国内外で予定されていたボランティア活動をはじめ、各種行事・イベントの多くが延期や中止となり、実施の目途が立たない状況が続いた。しかしオイスカの活動現場では感染対策を取りながら、粛々と活動を進めている。コロナ禍により活動現場に足を運んでいただくことが困難になっている中、オイスカ活動を支援してくださっている方々に向けて、現場より、現状や今後の展望について、写真や動画等を活用し Zoom ウェビナー及び、YouTube ライブで実施した。

第 1 回（タイ）

■日 時：2021 年 2 月 10 日 14：00～15：00

■テーマ：「コロナ禍でのオイスカ活動」

■報告者：タイ駐在代表 春日智実、現地スタッフほか

第 2 回（海岸林再生プロジェクト）

■日 時：2021 年 2 月 18 日 14：00～15：00

■テーマ：「震災から 10 年を迎えた海岸林再生プロジェクト」

■報告者：元日本経済新聞論説委員 小林省太氏、吉田俊通、鈴木和代、浅野奈々穂ほか

第 3 回（内モンゴル）

■日 時：2021 年 3 月 9 日 14：00～15：00

■テーマ：「コロナ時代の漢方薬と灌木を組み合わせた沙漠緑化への挑戦」

■報告者：オイスカアラ善（アラシャン）沙漠生態研究研修センター所長 富樫 智ほか

3) 体験・交流活動（交流会・イベント出展等）

組織名	事業名	開催日	人数	場所
北海道支部	活動紹介パネル展示	6月27日～	多数	えこりん村（恵庭市内）
茨城県推進協議会	途上国の子ども達に送る楽器 清掃の集い	7月25日	14名	水戸市内
	ヤングボランティア育成研修 事業	10月18日	32名	
	銚田市楽器贈呈式	2月24日	8名	銚田市内
首都圏支部	海外支援慰問品協力運動	12月12日	多数	豊洲市場（都内）
岐阜県支部	モンゴル国への緊急車両寄贈	11月14日	15名	岐阜市消防本部
愛知県支部	国際青年養成講座	4月4日～10日	20名	中部日本研修センター
	上鷹見小学校との交流会	10月27日	17名	
	中金小学校との交流会	1月22日 2月19日	18名	
関西支部	みんな仲間だ！ フェスティバル	12月13日	40名	クレオ大阪中央館
	ワンワールド・ フェスティバル	2月1日～21日	多数	オンライン開催
広島県支部	海外研修生 広島研修受入	11月25日～26日	14名	広島平和記念資料館等
四国支部 坂出推進協議会	チャリティゴルフ	3月26日	137名	高松カントリー倶楽部 （香川県坂出市）
高松推進協議会	高松市環境活動展	10月6日～12日	多数	高松市民交流プラザ（瓦 町 FLAG 8階）
	かがわ国際フェスタ	10月24日～30日	多数	アイパル香川 （高松市内）
香川東推進協議 会	国際交流事業	10月26日	180名	さぬき市立造田小学校 （香川県）
綾川推進協議会	研修生交流会	11月23日	35名	高松市内
徳島県推進協議 会	徳島のつどい	7月10日	15名	阿波観光ホテル （徳島市内）
高知県推進協議 会	国際ふれあい広場	10月18日	多数	ひろめ市場（高知市）
西日本支部 西日本研修センター	福岡県庁活動パネル展	8月3日～12日 11月26日27日	多数	福岡県庁
	田植え大会	6月6日	80名	西日本研修センター
	ひなた村自然塾	6月15日 11月12日	100名	
	ラボ・パーティー交流会	8月8日	34名	
	ハートネット21研修会	10月16日～18 日	9名	

	収穫感謝祭 2020	11月7日	1400名	
佐賀県推進協議会	佐賀国際フェスタ	10月1日～10日	多数	佐賀商工会館
西日本支部	We Love チャリティーゴルフコンペ	11月1日	64名	伊都ゴルフ倶楽部
	「地域の皆様とともに」イベント	11月20日	20名	博多ベイサイドプレイス
	佐賀県議連農業施設見学&交流会	12月11日	30名	佐賀県佐賀市、武雄市
	研修報告交流会	12月12日	30名	西日本研修センター
	生松台チャリティバザー	3月20日	多数	生松台中公園(福岡県)



海外の子ども達に送る楽器清掃 (茨城県推進協議会)



上鷹見小学校交流会 (愛知県支部)



モンゴル国への緊急車両寄贈 (岐阜県支部)

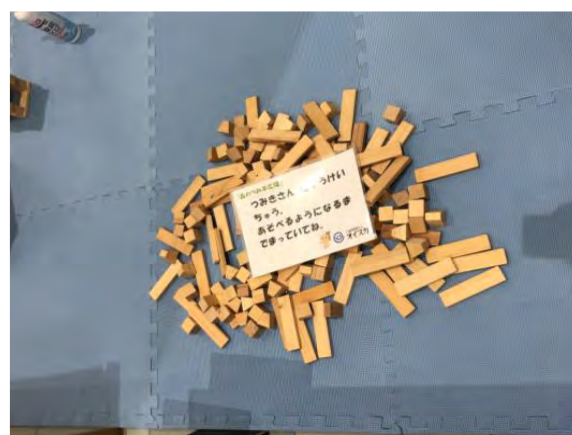


4) 各種体験・啓発活動

①森のつみ木広場(木育推進事業)

子どもたち(親子)が遊びを通して木に触れる「森のつみ木広場」等木育事業は、全国の支部・支援組織が中心に教育施設や地域イベントの出展などで、毎年 100 回近く継続的に開催されてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していた 90 回の活動のほとんどが中止となった。一方、毎年実施してきた教育機関からは強い要望があり、参加人数を減らす、消毒を徹底する、家庭ごとに遊んで貰うなど、それぞれの状況に応じた感染防止措置をとり一部は開催することができた。しかし当面の間、通常通りの活動は難しいことが予想された。そこでコロナ禍で子どもたちの自然体験や屋外遊びの機会が減少しているなか、少しでも木の香りやぬくもりを感じてもらえるよう、NPO 法人木 net やまなしの協力を得て家庭で遊べる少量のつみ木セットを準備した。また電力総連の周年記念行事の一環として、全国 12 カ所の保育施設等へ森のつみ木の寄贈が行われることとなり、リモートでのつみ木磨き体験や日本の森についての講座を開催。新しいかたちの「森のつみ木広場」が生まれている。引き続き、コロナ禍でもできることを模索し、引き続き、都市部での木材の活用や導入のきっかけづくりを行っていききたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
本部	11 月 10 日	中央幼稚園 (中央区)
首都圏支部	11 月 27 日	八成小学校 (杉並区)
山梨県支部	10 月 25 日	やまなしで過ごす「山の日」イベント内木育キャラバン (山梨県甲斐市)
長野県支部	6 月 9 日	入山辺保育園
	11 月 12 日	島内児童センター
	11 月 25 日	高宮児童センター
	12 月 7 日	入山辺保育園
関西支部	11 月 19 日	大阪市立中津小学校
	3 月 19 日	大阪市立瓜破北幼稚園



山梨で過ごす山の日イベント内木育キャラバン(山梨県支部)

2. 国内環境保全活動

オイスカが進める森林整備活動等は多くのステークホルダー（行政、企業、専門家、地元NPO等）と協働して実施し、植栽、間伐といった地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を行っている。同時に日本の林業を支え、持続可能な社会を目指すために国産木材の利用や森林の活用を促進すると共に、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

① 企業等との協働による森林保全活動

企業や自治体との協働により、森林整備を進めていくと同時に、人々が集い自然と共存できる森林や里山の再生を目指した活動を実施した。今年度は、ボランティアによる作業体験は、ほぼ実施できなかったが、地元の林業者や関係者の協力や理解を得て、必要な整備については概ね予定通りに実施することができた。

また「富士山の森づくり」では、全国育樹活動コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞、また協働で事業を実施しているオルビス(株)が地域環境美化功績者表彰で環境大臣賞を、山梨県丹波山村が国土緑化推進機構の「ふれあいの森づくり」会長賞を受賞するなど、これまでの活動への評価をいただいた年となった。

今後は更に、企業・団体、自治体との連携により、森林空間を健康、教育等多様な分野での活用を推進することで、新たな森と人のかかわりのきっかけづくりを行い、山村地域の活性化と持続可能な社会の構築を目指していく。

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	5～11月	獣害防止対策ネット補修、除伐、生育調査、鳥類調査、被害毎木調査、アロマ アルコールスプレーを新型コロナと闘う医療従事者に届けるプロジェクト 等	124名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	10月	下刈り、除伐、木柵設置、林間ステージ・展望台設置、林内散策ガイドマップ調査	4名	山梨県甲州市
ホンダの森づくり（秩父）	8月	下刈り		埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	7, 8, 3月	下刈り、間伐		山梨県山梨市
東急ホテルズ グリーンコインの森	4, 5, 10月	間伐、枝打ち、倒木処理、歩道整備、木柵設置、耕作放棄地の活用	34名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	冬期	間伐、枝打ち、集材・搬出		山梨県道志村
三菱自動車工業 パジェロの森	8, 2月	下刈り、間伐		山梨県早川町

②全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
北海道支部	高校生の農業体験活動	8月11日	11名	当別町
	ニクジュヨウの利用・流通支援に向けた意見交換会	8月19日	6名	札幌市内
山梨県支部	富士山の森づくり活動協力 アロマ アルコールスプレーを新型コロナと闘う医療従事者に届けるプロジェクト	5～10月	多数	山梨県鳴沢村
愛知県支部	トヨタ工業学園「農業体験」	9月7日～10日	130名	中部日本研修センター
	農業体験・日本語研修会	12月22日	5名	
富山県支部	緑の里山保全森づくり	9月12日 9月27日	65名	立山町天林地区
関西支部	「ふれあいの森」森づくり	10月31日	18名	大阪府四条畷市
四国支部	尾の瀬山 「オイスカ憩いの森」	4月7日 5月23日	多数	尾の瀬山 (まんのう町)
	山・林・SUN活動	11月15日	70名	
四国支部 愛媛県推進協議会	Mt. LOVE 10	7月20日 10月26日 11月15日 3月6日	68名	忽那山(愛媛県)
西日本支部	熊本地震復興支援 農業ボランティア活動	6月18日	25名	熊本県阿蘇郡西原村
	東峰村過疎化地域草刈り	6月23日 9月30日	45名	福岡県東峰村
	人吉ボランティア	12月4日 12月14日	17名	熊本県人吉市
	太良町ボランティア活動	2月5日	8名	佐賀県太良町
	グリーンウェイ朝倉水源の森づくり	3月14日	25名	福岡県朝倉市
	桜島草刈り	3月26日	10名	鹿児島県 桜島
	第15回鳥がさえずる緑の回廊植樹会	3月27日	8名	福岡県北九州市



Mt. Love 10 (四国支部 愛媛県推進協議会)

③ 海外視察・ボランティア派遣

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、海外渡航制限のため実施できず。

3. 東日本大震災復興支援

「海岸林再生プロジェクト」第1次10ヵ年計画（2011-2020）

宮城県との追加協定を締結し、震災前は宅地であった土地3.75haへの植栽を終え、103.05haの協定地内すべての植栽を完了した。計画していたボランティア活動は、コロナウイルス感染拡大の影響で2回予定していたうち14回の中止を余儀なくされた。報告会の中止も相次ぎ、例年の4割程の参加者にとどまった。本年は、震災10年の節目の年でもあったため、メディア紹介回数は前年の7回に比べ36回と大幅に増え、露出度が増した。また、これまで海岸林再生に取り組んできたことに対し、宮城県から感謝状が授与された。

書籍「松がつなぐあした ー震災10年 海岸林再生の記録ー」（著者：元日本経済新聞論説委員兼編集委員 小林省太氏）が12月に出版された。次世代にわたって読み継がれることを願い、第3者目線で10年を詳細に記録した大作である。河北新報、産経新聞、矢作新報、電気新聞、日本農業新聞、UAゼンセン新聞や、「森林技術」等の専門誌で「書評」紹介されると同時に、日本エッセイスト・クラブ大賞にノミネートされ、全国学校図書館協議会の選定図書にも選ばれた。

【 10年間の総括 】

2011年3月11日の東日本大震災で、名取市沿岸の海岸林は壊滅的被害を被った。それに対しオイスカは3月17日に林野庁長官に「協力申出書」を提出。のちに被災農家で組織された「名取市海岸林再生の会」と連携して、宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツを主とする苗木生産を開始。全額民間資金、雇用創出・市民参加を伴う計画でプロジェクトを開始した。

2014年2月、国・県・市・再生の会・オイスカは県全体の海岸林再生計画1,100haの11分の1を占める103.05ha、育苗～植栽～保育の一貫施業の、前例のない大規模整備協定を締結して植栽を開始。2020年10月、植栽は無事完了した。なお、佐々木廣一名取事務所統括（元林野庁職員）を筆頭とし、低コスト林業と極めて高い技術を追求するとともに、作業員・視察者などの安全配慮義務遂行に関しても、再生の会、宮城中央森林組合、松島森林総合のプロ集団および、累計約11,000人の全国からの8時間ボランティアは、10年間無事故を継続している。

今後は、約3億円の積立金を原資として第2次10ヵ年計画を実施し、下刈、つる切り・除伐、本数調整伐、排水路増設・修復、作業道管理、ゴミ拾い、生長モニタリング調査、巡視、各種啓発活動等を継続する。

調査研究部門に関しては、清藤城宏緑化技術参事（農学博士・元山梨県森林総合研究所）を中心とする生長モニタリングを丹念に継続し、HPで記録を公開している唯一の被災海岸防災林である。そもそも、前例のない規模の人工盛土上での海岸防災林植栽として専門家等から注目されており、後世への知見と

して残すことが調査研究関係者から期待されていた。2017年より森林総合研究所とともに土壌・根系・生長関係の論文が2021年8月に公開される。また、「水利科学」「森林技術」等の専門誌に苗木生産、植栽と保育技術の実際を詳細に寄稿することや、HPブログを活用してガラス張り化するなど、知見の情報公開に努めてきた。なお、林野庁発行の森林林業白書には10年で3回「事例」紹介されている。

啓発活動に関しては、当プロジェクトは立ち上げ当初から「国民運動型」の復興支援を志した。被災海岸林の再生に「共感」し、「我がこと」と考えて参画する市民の輪の拡大に向けて、広報啓発活動を極めて重視した。他のNPOにないオイスカの強みである地方組織、法人会員、全国の心熱い個人会員が啓発活動の先頭となり現場をバックアップするという組織力が機能し、年を追うごとに共感の輪が広がった。これはプロジェクトの「持続性」に大きな後押しとなった。年齢層・男女比ともに偏りのない8時間従事ボランティアは極めて士気高く、「戦力」として大きく機能した。リピート率4割、平均寄附単価も年々上昇した。交流人口、経済効果は決して小さなものではなかった。

【 10年間の総括 】 7つのシステムを確立し、第1次10ヵ年計画の目標を達成した。

1. 官民協働の大規模協定締結を実現 (100ha規模の造林協定事例は皆無)
2. 大規模苗木供給体制を実現 (県内必要本数600万本中、新規参入で40万本生産)
3. 地元に雇用創出・交流人口等の経済効果を生みながら整備を実現 (累計9,000人以上雇用)
4. 効率的な一貫施業(育苗～植栽～育林)で、極めて高い99.2%の活着率を実現
5. 低コスト林業の実現(自家生産の優良苗木植栽により、購入より低コストと高生育率を証明)
6. 市民参加の実現 (ボランティア累計11,000人。プロとともに10年無事故)
7. 民間活力・民間資金のみで事業を実現 (募金目標:10億円に対し約8.5億円)

【 10年間の累計実績 】

- 協定締結面積 103.05ha
*内訳: 国有林: 2.91ha、県有・市有林: 96.4ha、内陸防風林共有林等: 3.74ha
- 植栽完了面積 72.46ha
- 植栽完了本数 370,198本
*内訳: マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ・精英樹クロマツ 369,527本、
広葉樹 11種 683本
- 植栽平均活着率 99.2%
- 雇用数 9,233人 (8時間/日人、10年無事故)
- 苗木出荷本数 403,271本 (うち他市の海岸林に協力68,288本)
- 8時間従事ボランティア数 11,649人 (リピート率約5割。10年無事故)
- 視察者数 3,413人
- 外国人来訪者 63ヵ国・268人 (うちメディア30ヵ国)
- 活動報告会・講演会 248回・39,604人
- 寄附金募集パンフレット配布数 29万枚
- 記録動画自主制作 15本
- HPブログ更新 2,406回更新 (震災から10年、3,673日中)
- 国内メディア紹介 268回
- 寄附者数 2,202人 (*受領証発行者のみ。うち会員3割)

●寄附金等総収入

約 8.5 億円（うち積立金約 2.9 億円）



2014・15 年植栽地 約 26ha 全景（左：2016 年撮影 右：2020 年撮影）

5. 国際連携・交流促進

1) 国際会議等の開催

① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和 3 年 1 月 18 日(月)

場 所：オンライン実施（オイスカ本部を拠点に 19 カ国より参加）

出席者：19 カ国 40 名

内 容：

1. オイスカがアジア太平洋に推進している「子供の森」計画の青少年を対象とした環境教育、植林活動、及び開発活動において、コロナ禍の活動の在り方やどのような相互の協力が出来るか方策を話し合った。
2. コロナ禍の青年育成活動を充実させるため、どのような手法が効果的か検証し、実践で活かすことができるかを検討した。
3. 途上国への青少年活動支援に対して、参加を促すためにどのような方策が効果的であるか話し合った。

② オイスカ支援連携サミット

テーマ： 「人材育成を基礎とした日本の国際協力の新たな展開」

開催日： 令和 2 年 12 月 11 日(金) 14:00～16:00

会 場： オンライン開催

参加者： 30 名

内 容：

オイスカは「人材育成事業」を活動の柱とし、国内外の国際協力の最前線で活躍する人材を輩出してきた。しかし国際社会や経済の発展に伴い各国で求められる人材育成も大きく変化している。将来にわたり「オイスカの人材育成事業」はどうかの潮流に則し展開していくか、また目指すのか、新たな方向性や事業展開をはじめ支援の意義を打ち出し支援者（会員）の拡大につなげていくよう意見交換を行った。

5. 収益事業

総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の100%を公益目的事業に資した。

1. 不動産等の賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m²

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

(2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m² (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

(3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m²

貸与先：株式会社ディアローク

※普通賃貸契約

2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m²

※管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

6. 組織の運営

令和2年度においては評議員会を1回、理事会を3回開催し、健全な運営に努めた。また顧問・参与懇談会を1回開催、組織運営に関するアドバイスを受けた。

会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 評議員会

①令和2年度定時評議員会（書面審議）

日時：令和2年6月17日(水)

議題：

第1号議案：令和元年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：評議員の選任(案)について

報告事項

- ・令和2年度事業計画・予算について
- ・令和2年度特定資産運用状況について

(2) 理事会

①令和2年度第1回理事会（書面審議）

日時：令和2年6月10日(水)

議題：

第1号議案：令和元年度事業報告・決算書類（案）及び監査報告

第2号議案：令和元年度新規賛助会員の承認（案）について

第3号議案：評議員候補の推薦(案)について

第4号議案：参与の委嘱(案)について

第5号議案：事務局機構の一部改正(案)について

第6号議案：顕彰・表彰規程の一部改正(案)について

第7号議案：定期評議員会の開催変更(案)について

第8号議案：国際協力活動推進基金の状況について

報告事項

- ・令和元年度特定資産の運用状況について
- ・オイスカ支援連携サミット概要(案)について

②令和2年度第2回理事会（書面審議）

日時：令和2年10月15日(木)

議題：

第1号議案：在宅勤務（テレワーク）規程（案）について

第2号議案：育児休業・育児のための深夜業の制限及び育児短時間勤務に関する規則の一部改正（案）について

③令和2年度第3回理事会

日時：令和3年3月10日(水)12:00～13:30

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：

第1号議案：令和2年度補正予算(案)について

第2号議案：第2次中期計画(案)・財政健全化プログラムについて

第3号議案：令和3年度事業計画・予算(案)について

第4号議案：支部会長の選任(案)について

第5号議案：給与規程の一部改正(案)について

第6号議案：令和3年度定時評議員会の開催(案)について

報告事項

- ・代表理事・業務執行理事の業務報告（令和2年3月～令和3年2月）
- ・60周年記念行事・出版について
- ・2021年度オイスカ支援連携サミット開催概要について
- ・第1次中期計画（2018-2020）総括について

(3)顧問・参与懇談会

日時：令和2年9月10日（木）12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

報告：①令和元年度事業報告及び決算について

②令和2年度事業計画及び予算について

③コロナ禍における事業への影響について

2. 役員

令和2年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学顧問

(1) 評議員

No.	氏 名	役 職
1	荒 木 光 弥	国際開発ジャーナル 編集主幹
2	岡 田 康 男	弁護士
3	神 野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
4	佐 伯 勇 人	四国電力(株) 取締役会長
5	佐 藤 百 合	アジア経済研究所 上席主任研究員
6	篠 塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
7	進 士 五 十 八	福井県立大学 学長
8	中 村 利 雄	(公財)全国中小企業取引振興協会 会長
9	廣 野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
10	ペマ・ギャルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 教授
11	マリ・クリスティーン	東京女子大学 現代教養学部 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野悦子	理事長
2	廣瀬道男	副理事長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石安明	専務理事
2	森田章	常務理事

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	石井淑雄	(株)石井 代表取締役会長
2	瓜生道明	西日本支部会長 九州電力(株)代表取締役会長
3	大久保敏治	首都圏支部会長、元横浜銀行(株)常務取締役
4	樋泉克夫	愛知県立大学 名誉教授
5	光岡保之	愛知県支部 会長

(5) 監事

No.	氏名	役職
1	神山敏夫	税理士・公認会計士
2	梶川幹夫	(株)NTTドコモ取締役・常任監査等委員

(50 音順)

組織の運営

(6) 顧問

No.	氏名	役職
1	太田 猛彦	東京大学名誉教授
2	櫻田 謙悟	(公社)経済同友会代表幹事
3	篠沢 恭助	(公財)資本市場研究会顧問
4	新木 富士雄	北陸電力(株)名誉顧問
5	畝川 寛	中国電力(株)取締役監査等委員
6	中西 宏明	(一社)日本経済団体連合会長
7	中野 利弘	前(公財)オイスカ理事長
8	西 垣 昭	元大蔵省事務次官
9	榊本 晃章	(一社)日本動力協会会長
10	松尾 新吾	九州電力(株)特別顧問
11	三村 明夫	日本商工会議所会頭

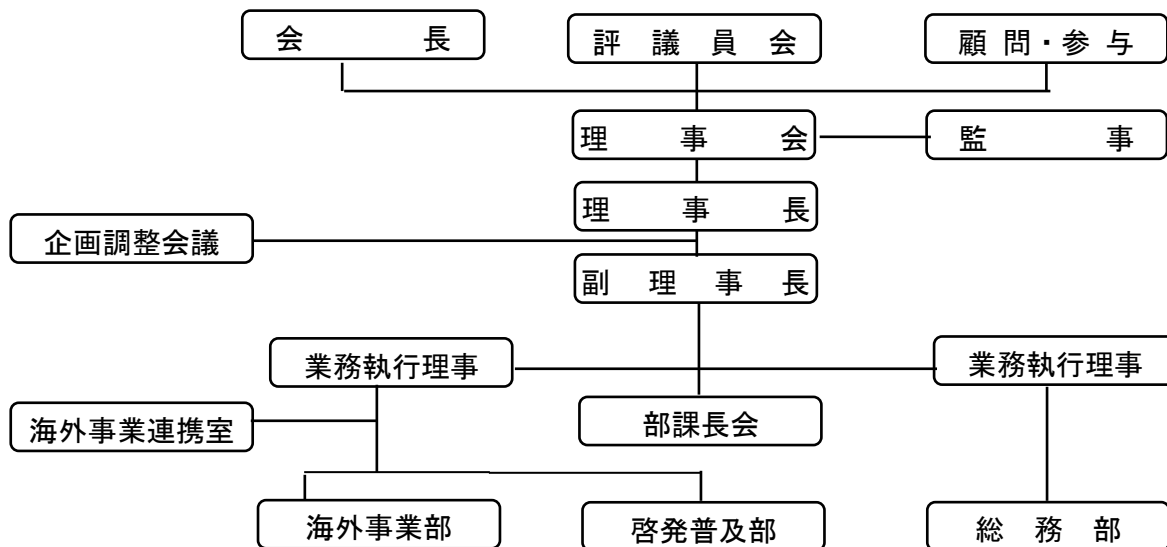
(7) 参与

No.	氏名	役職
1	安宅 建樹	金沢商工会議所会頭
2	泉 雅文	四国支部会長
3	逢見 直人	日本労働組合総連合会会長代行
4	岡崎 昌三	関西支部会長
5	小川 信也	岐阜県支部会長
6	落合 偉洲	静岡県支部会長
7	鬼石 貞治	(学)中野学園校長
8	金丸 信吾	山梨県支部会長
9	亀井 文行	宮城県支部会長
10	木島 正芳	元東京入国管理局長
11	久 和 進	富山県支部会長
12	黒柳 俊之	元(独)国際協力機構理事
13	小林 泉	大阪学院大学国際学部教授
14	茂田 和彦	(公社)大日本山林会監事
15	杉下 恒夫	(一財)国際開発機構理事長
16	土井 泰彦	元文教大学教授
17	中村 陽子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
18	西脇 芳和	(公財)SOMPO 環境財団専務理事
19	松村 秀雄	広島県支部会長
20	水本 正俊	長野県支部会長
21	宮嶋 嘉則	CELCO JAPAN 特別顧問
22	山下 雅子	社会保険労務士
23	横山 清	北海道支部会長

〈50音順、令和3年3月31日現在〉

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



- ・海外開発協力事業(公 1)
- ・「子供の森」計画事業(公 2)
- ・人材育成事業(公 3)
- ・啓発普及事業(公 4)

〈令和 3 年 3 月 31 日現在〉

(2) 職員

令和 3 年 3 月 31 日現在における本法人職員(パート職員含む)は次のとおりである。

事務所	職員数
本部(海外赴任者含む)	44
西日本研修センター	10
中部日本研修センター	9
四国研修センター	7
関西研修センター	2
地方組織	10
合計	82

令和4年4月1日～令和3年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額
会員の動向

	期首会員数		期末会員数		期首と期末の増減数	
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人
本部直轄	193	52 141	186	50 136	-7	-2 -5
北海道支部	80	50 30	74	47 27	-6	-3 -3
宮城県支部	208	118 90	207	118 89	-1	0 -1
首都圏支部	358	161 197	334	144 190	-24	-17 -7
山梨県支部	100	48 52	93	47 46	-7	-1 -6
長野県支部	140	62 78	121	56 65	-19	-6 -13
富山県支部	139	80 59	130	81 49	-9	1 -10
静岡県支部	239	81 158	238	78 160	-1	-3 2
愛知県支部	826	239 587	794	235 559	-32	-4 -28
岐阜県支部	107	37 70	137	37 100	30	0 30
関西支部	79	25 54	80	28 52	1	3 -2
広島県支部	71	42 29	67	42 25	-4	0 -4
四国支部	953	207 746	918	208 709	-35	2 -37
西日本支部	782	316 466	768	307 461	-14	-9 -5
合計	4,275	1,518 2,757	4,147	1,479 2,668	-128	-39 -89

会費入金額(千円)

	令和元年度入金額		令和2年度入金額		前年度との 差額	前年比
	法人 個人	合計	法人 個人	合計		
	5,442	2,730 2,712	5,459	2,740 2,719	17	100.3%
	2,460	1,940 520	2,390	1,870 520	-70	97.2%
	9,070	6,990 2,080	7,170	5,670 1,500	-1,900	79.1%
	16,826	12,670 4,156	15,848	11,720 4,128	-978	94.2%
	3,505	2,290 1,215	3,192	2,070 1,122	-313	91.1%
	4,154	2,620 1,534	3,774	2,500 1,274	-380	90.9%
	5,310	4,080 1,230	5,170	4,100 1,070	-140	97.4%
	8,052	5,070 2,982	7,182	4,540 2,642	-870	89.2%
	24,090	13,195 10,895	23,133	12,590 10,543	-957	96.0%
	3,252	1,640 1,612	3,674	1,830 1,844	422	113.0%
	2,921	1,820 1,101	2,927	1,810 1,117	6	100.2%
	2,870	2,240 630	2,750	2,180 570	-120	95.8%
	25,139	9,850 15,289	24,536	10,240 14,296	-603	97.6%
	25,740	15,695 10,045	25,324	15,550 9,774	-416	98.4%
合計	138,831	82,830 56,001	132,530	79,410 53,120	-6,301	95.5%

附属明細書

令和3年3月
公益財団法人オイスカ

なお、令和2年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。